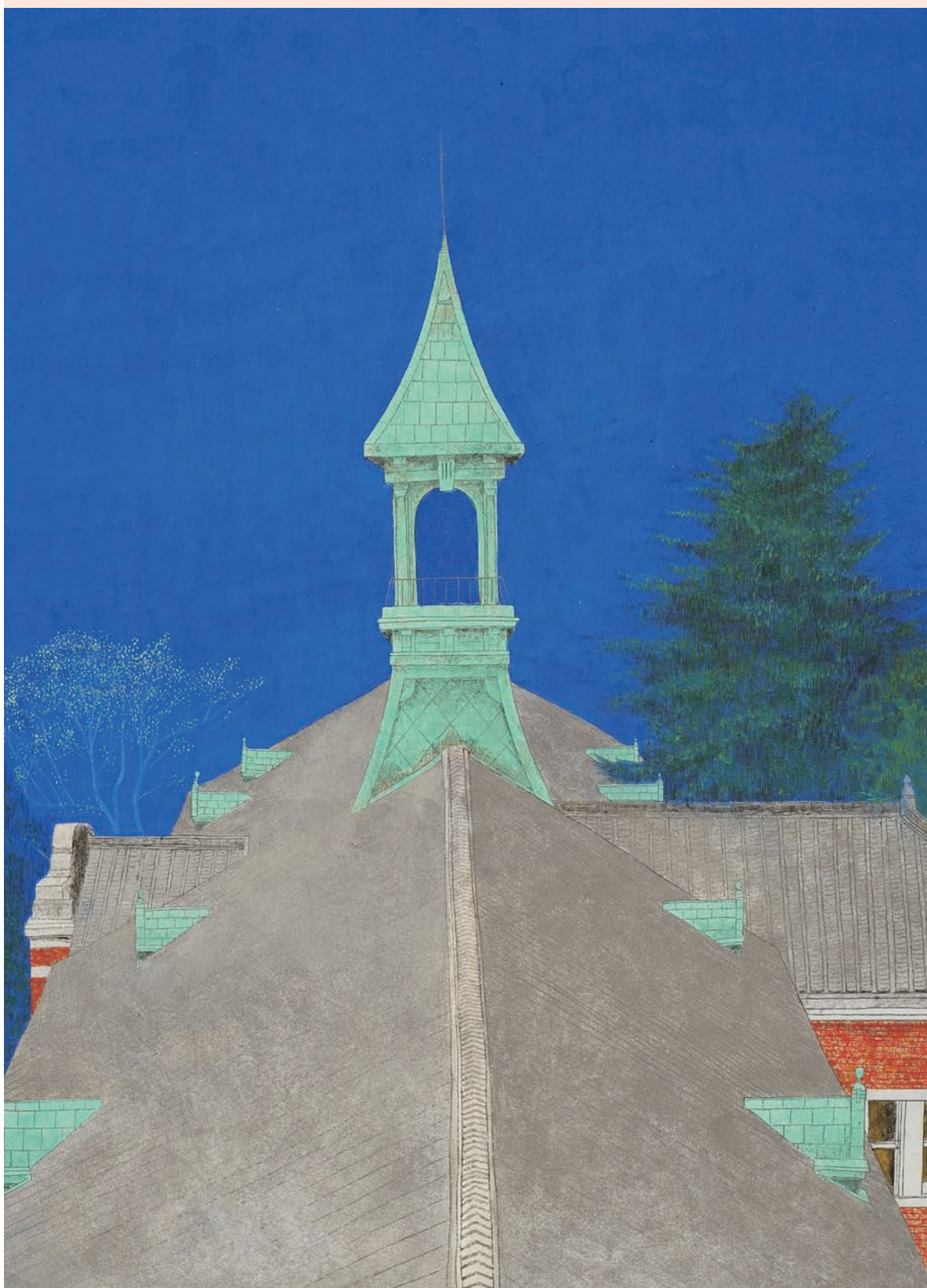


MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

2013年9月
No.138

無書燈



大谷大学同窓会

大谷大学と私



ノーマン A. ワデル先生
にインタビュー

「縁に導かれて」

本学において、40年教鞭をおとりいただきましたノーマンA.ワデル先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

▶まず、日本のことを学ばれたきっかけをお聞かせください。

私が日本に関心を持つようになったきっかけは、R・H・ブライス先生のご著書『Zen in English Literature and Oriental Classics』でした。ブライス先生には、俳句、禅、禅と西洋の古典などに関するすばらしいお仕事もあります。しかし大学生時分に、ブライス先生のあの本に出会ったことは、私のその後の人生にかなりの影響を与えました。例えば、先生の師匠でもあった鈴木大拙先生の英文著書も興味深く読んでいました。

これをきっかけにして、芭蕉とか一茶の句、白楽天の詩を原文で読みたかったため、日本語を学びはじめました。当時、大学の少ない日本語科目の中で、土曜日も含めて、朝の8時から毎日の授業がありました。そこで「明日までにひらがなを全部覚えてきなさい」、そしてその次の日には「カタカナを覚えてきなさい」、という調子で、学生が必死になるしかなかった。今思うと、ああいうやり方は悪くないと思います。この授業は一年間受講しましたが、その半年後には、残念ながら日本語の能力はかなり低下しました。それで、モンレーの外国語大学で学び直すことにしました。ここでは集中コースを履修して、日本語を日本人の先生について一日中勉強したのです。マスターするというには程遠いというものでしょうが、おかげさまで日本に来た時の日常会話には、あまり不自由を感じませんでした。

▶大谷大学で教鞭をとられるようになった経緯はどのようなものだったのでしょうか。

東京の某大学で教えていた時でした。時々『イースタン・ブディスト』の原稿の編集、翻訳などを手伝っていました。この雑誌は大拙先生のもとで1939年まで刊行されて、戦争中は休刊の状態にありましたが、

1960年代の初めに東本願寺がもう一度出したいということになりました。それで私に声がかかったのです。以前、鎌倉にいた時、大拙先生の英文原稿を手伝ったことがありました。また先生の『日本的靈性』の英訳を文部省から依頼されましたが、それも関係していたのかもしれませんが、とにかく、東本願寺の訓覇信雄宗務総長から、『イースタン・ブディスト』の仕事の話があって、そのため京都にやってきました。最初は、雑誌の編集の仕事を中心にするためであったのですが、大学にも勤務していたので、結果的には、編集の仕事と大学の仕事の両方をするということになりました。

▶大谷大学ではどのような科目を担当されたのでしょうか。また、印象に残っている出来事についてお聞かせください。

東京でも、英文学、ワーズワスなどのロマン派の詩人を好んで教えていましたので、本学でも英詩の授業を担当していました。これもロマン派の詩人を好んでおられたブライス先生の影響でしょうか。

その60年代、70年代の印象に残っているのは、何とんでもあの学生紛争ですね。そもそも学生紛争が勃発したのは、私が学生生活を送っていたパークレーからでした。やがてそれがヨーロッパに広がり、世界を回って、日本へとやってきました。私は、遠い日本まで来て、また学生紛争に出会うとは夢にも思いませんでした。本学でも、学生が大学を占拠していたために、学内で会議など開くことができませんでした。そこで学外の会議場で、夜の9時から教授会が行われるというような異常事態が相当長く続いていました。

▶先生が学問をする上で心がけてこられたことをお聞かせください。

自分が本当に面白いと思うことをやるのが大切なのではないでしょうか。例えば、年2回発行されていた『イースタン・ブディスト』の原稿の締め切りが近づくくと、私は事実上の編集長であった西谷啓治教授と一緒にその原稿を直したり、編集したりするために、先生のお宅に毎日のように通ったものです。原稿は足りないという事がよくあったので、おもしろい古典翻訳などを新しく作成することもありました。先生のお宅への訪問は、2、3週間毎日のように続くこともありました。こうした折に、西谷先生の学問に対する厳しい姿勢を垣間見ることができました。例えば、先生はたった一つの文章を1時間も2時間もかけて吟味されるのです。夜中1時、2時になると私などは疲れてきて、文章に対して、この辺で手を打ちたくなる気持ちになります。しかし、年輩の先生の勢いは衰えず、いつまでも仕事を続けるよう構えておられました。

▶先生のご専門は日本の仏教文化で、とくに白隠を研究なさっていますが、そもそも白隠という人物に取り組まれたきっかけは何だったのでしょうか。

最初は、盤珪、そして道元の『正法眼蔵』でした。白隠はその後でした。私はいつか、大拙先生が道元・白隠・盤珪という日本の三つのタイプの禅について書かれた論文を翻訳したことがありました。私はそのつ

もりでやったということはなかったのですが、結局、私はずっとその三人を中心に勉強してきました。

なかでも白隠の翻訳は当時ほとんどありませんでしたから、自分でやってみることにしたのです。大変難しかったのですが、しだいにその面白さに気づいていきました。

白隠の独特の文学的な才能は、翻訳者として、非常に魅力的でした。例えば、「因果物語」というジャンルは、仏教ばかりではなく、井原西鶴のような人の文学作品にも見られるのです。文学的にそういうストーリーを書いています。しかし白隠の因果話は、他の誰よりも、遙かに力強い面白い書きぶりを見せています。白隠の他の著作、例えば仮名法語にも似ている書きぶりはよくみられますので、仏教文学者としても一流の人だと思います。それで白隠の自伝も、宗教的な面だけではなく、文学としても大変面白いものです。

禅の師匠が自分の宗教人生の子細を書くのは、珍しいことですが、白隠は2冊の長い自伝を出版していて、その他の著作にも自伝的な要素がよく見られます。それだけではありません。最近しだいに注目されてきている白隠の禅画にも、自画像が多い。布袋さんとか他の人物を画いても、それが白隠の顔になってしまう感じなのです。

▶最近のご研究についてお聞かせください。

この頃二つの仕事に取り組んでいます。一つは18世紀の京都で活躍し、日本における煎茶の普及に努めたいわば元祖のような売茶翁の伝記です。実は数年前に英文で1冊にまとめて、米国で出版されましたが、今は、それを日本の読者のために日本語版を作っています。

伝記資料があまりない人ですから、比較的多く残っている書簡を中心にしています。その書簡を読んで、色々なことを調べるうちに、すっかり病み付きになってしまいました。手紙を手がかりにして売茶の生涯を再構成することには、パズルを解くような非常な面白さがあります。

もう一つの仕事は、ブライス先生の未発表文書や書簡をまとめて出版することです。日本の戦後の歴史に貢献した方ですから、この本は反響を呼ぶものになるかもしれないと思っています。

▶最後に大谷大学へのメッセージをお願いします。

初めて10数年間教えた学生と、その後に入って来た学生とでは印象がしだいに変わってきたという感じがしました。60年代から70年代の頃は、真宗関係の学生が多かったと思うのですが、その後大学が大きくなるにつれて、学生には以前のような信念というようなものが薄くなってゆくように感じました。いつでしたか、70年代だったでしょうか、大学を拡大するか、それとも以前のように小さいままでいくかという議論があったことを覚えています。この話は西谷教授から聞いたと思いますが、先生自身は「小さな大学でいい」と思っておられました。しかし、実際にはかなり異なった方向に進んでゆきました。

本学には、初代学長清沢満之の精神というものがあります。それを守らなければならない。今は移り変わりの激しい時代ですが、そんな時代だからこそ、本学の学問のルーツである建学の精神を忘れずにいてほしいと思います。

【略歴】	【著書】	【論文】
1940年 アメリカ合衆国ワシントンD. C. に生まれる	『Japanese Spirituality』 「日本の靈性」 (鈴木大拙) の英訳著書	「オルフェウス神話を題材にした中世詩「サー・オルフェオ」について」
1963年 カリフォルニア大学バークレー校文学部卒業	『The Unborn, the Life and Teaching of Zen Master Bankei』	「不滅のアーン・マレー (Ern Malley) - オーストラリアの代表的詩人 -」
1965年 モントレー大学大学院修士課程 (日本語・日本文化)	『The Heart of Dōgen's Shōbōgenzō』	他論文 多数
1967年 実践女子大学勤務	『Hakuin's Poison Words For the Heart』	
1969年 大谷大学専任講師	『Essential Teachings of Zen Master Hakuin』	
1986年 大谷大学助教授	『Wild Ivy: The Spiritual Autobiography of Zen Master Hakuin』	
1992年 大谷大学教授	『The Old Tea Seller: The Life and Poetry of Baisaō』	
2000年 博士 (文学) の学位取得		
2005年 大谷大学退職		
現在 大谷大学名誉教授		

ノーマン A. ワデル先生へのコメント

ワデルさんと大谷大学 元大谷大学教授 多田 稔 (英文学)

50年前、カリフォルニア大学バークレー校英文科の学生だったワデルさんはたまたま読んだ R.H.ブライス先生の著書『Zen in English Literature & Oriental Classics』に触発され、禅と日本文学に興味をもち著者に手紙を書いた。恐らく返事は来ないだろうと思っていたら意外にも丁寧な返事がきた。こうして始まった文通の間に準備万端整えたワデルさんが来日してみると、ブライス先生は急死されていた。すでに京都から鎌倉の松ヶ岡に移り活躍を続けておられた鈴木大拙先生の右腕として、様々の分野で

活躍されていたのがブライス先生であった。

大拙先生の戦後の主著『日本の靈性』の英訳がワデルさん来日後の初仕事となる。その後大拙先生の活動の基盤であった大谷大学の中に設置されていたイースタン・ブッディスト協会に招かれ、大谷大学の学生たちに英語を教える一方で、盤珪・白隠・道元・売茶翁などの研究と英訳本の出版を次々と行い、退職後の現在も続けておられる。思えば不思議な仏縁の顕現であると私は深い感動を覚えるのである。ますますのご活躍を念じております。



ただ みのる
1962年 旧制 京都大学大学院文学研究科退学
1965年 京都工芸繊維大学専任講師
1967年 京都工芸繊維大学助教授
1975年 京都工芸繊維大学教授
1984年 大谷大学教授
1988年 大谷大学大学院文学研究科長
2001年 大谷大学退職
2002年 帯広大谷短期大学学長
2008年 帯広大谷短期大学退職

赤レンガ100周年記念行事の開催

大谷大学は、1913（大正2）年に「京都市北区」の現在の地に移転・開校し、同年11月9日に「赤レンガ造 本館（現在の尋源館）」の落成式が行われました。

大学の象徴である「赤レンガ」は、今年の11月9日（土）、落成式より丁度100周年を迎えます。2013年5月10日（金）に開催されました同窓会総会におきまして、その記念の日を「赤レンガ100周年 記念の一日」として、同窓会と大学が記念行事を協働して行うことが提案され、了承されました。

各種イベントにつきましては、以下のとおりです。なお、変更が生じた場合には、「大谷大学ホームページ」または「大谷大学同窓会ホームページ」にてお知らせいたしますので、ご確認ください。

同窓会員の皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

大谷大学ホームページ

<http://www.otani.ac.jp/akarenga100>

大谷大学同窓会ホームページ「無盡燈」

<http://www.mujiinto-otani.org/>



2013年11月、大谷大学が京都市北区の現在の地に開校して100年を迎えます。

—赤レンガ100周年—

赤レンガ 100 周年記念イベント

10月12日(土)

入場無料・一般来聴歓迎

開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要

講 題 建学の精神をめぐる学問と宗教と国家
—近代教育史のなかの大谷大学—

時 間 10:00～

会 場 講堂

講 師 武蔵野美術大学 教授 高橋 陽一 氏



1993年3月 東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学
1997年4月 武蔵野美術大学 着任（現在に至る）
主な著書 『教育通義』『造形ワークショップを支える』『造形ワークショップの広がり』
『美術と福祉とワークショップ』『道徳教育講義』など

清沢満之生誕 150 周年記念シンポジウム

テーマ 清沢満之 —その精神にせまる—

時 間 13:30～15:30（開場 13:00）

会 場 講堂

波乱万丈の生涯を生きたひとりの人間としての清沢満之にせまり、そこから、いまを生きる私たちがどのようなことを学べるかを改めて問い直していきます。

《パネリスト》



京都大学大学院教授 藤田正勝 氏
1949年生 京都大学大学院文学研究科 ドイツ・ボーフム大学ドクターコース修了 哲学専攻
現在、京都大学大学院総合生存学館教授
主な著書 『清沢満之—その人と思想—』藤田正勝・安富信哉共編（法蔵館）
『西田幾多郎の思索世界—純粹経験から世界認識へ—』（岩波書店）など



大谷大学名誉教授 安富信哉 氏
1944年生 大谷大学大学院文学研究科修了 真宗学専攻 大谷大学名誉教授
現在、真宗大谷派光濟寺住職
主な著書 『清沢満之—その人と思想—』藤田正勝・安富信哉共編（法蔵館）
『清沢満之と個の思想』（法蔵館）など

《コーディネーター》



大谷大学准教授 村山保史 氏
1965年生 関西学院大学大学院文学研究科修了 哲学専攻 大谷大学文学部准教授
主な著書 『カントにおける認識主観の研究—超越論的主観の生成と構造—』（晃洋書房）
『哲学してみる』（監修・翻訳）（世界文化社）など



赤レンガ100周年
記念行事一覽

記念展示

秋季企画展Ⅱ「赤レンガの学舎」^{まなびや}

会 期：2013年10月12日(土)～11月28日(木) 10:00～17:00 ※入館は16:30まで
 会 場：大谷大学博物館
 休 館 日：日・月曜日、ただし、10/13、11/24、11/25は開館
 観 覧 料：一般・大学生/200円 小中高生/無料 同窓生/無料

記念講演

赤レンガ100周年記念講演会

日 時：2013年11月9日(土) 16:20～18:10
 会 場：大谷大学講堂
 講題・講師：「清沢先生を父とし 南条先生を母とする」大学 水島 見一 教授(教育・心理学科)
 変わるものと変わらないもの ―〈大学〉の未来 鷺田 清一 教授(哲学科)

井上雄彦氏作・屏風『親鸞』特別展示会

日 時：2013年10月12日(土)・13日(日) 10:00～17:30
 2013年11月9日(土)・10日(日) 10:00～17:30
 会 場：図書館北東フロア(響流館2階)
 協 力：真宗大谷派(東本願寺)

「対談～屏風『親鸞』を語り合おう！」

日 時：2013年11月10日(日) 13:00～14:40(開場12:30)
 会 場：メディアホール(響流館3階)
 対 談 者：真宗大谷派宗務所(東本願寺)財務部次長 ちかまつ ただし 近松 誓 氏
 真宗学科 第4学年 戸次 輝(司会進行役)
 真宗学科 第4学年 岩崎 径
 真宗学科 第3学年 本多 敬成
 後 援：真宗大谷派(東本願寺)

地域交流イベント

写真展「本館から尋源館へ―地域と歩んできた100年―」

会 期：2013年10月12日(土)～11月7日(木) ※日曜日は休館
 会 場：ギャラリー(響流館1階) 主催：大谷大学 共催：北大路商店街、学園祭実行委員会

赤レンガ ライトアップ

期 間：2013年10月12日(土)～11月10日(日)
 時 間：日没～21:00

記念の一日(同窓会イベント) 対象：同窓会員

第18回ホームカミングデー

日 時：2013年11月9日(土) 12:30～16:00
 会 場：大谷大学 博綜館5階 第1会議室他

記念パーティー <会費制>

日 時：2013年11月9日(土) 18:30～20:00
 会 場：大谷大学 博綜館5階 第1会議室

記念グッズ【学内販売】

HELLO KITTY

オリジナルストラップ

450円



学内セブンイレブンにて販売中

オリジナル図書カード

500円・1000円



10/12(土)より博物館にて販売

オリジナルコーヒー



10/12(土)より博物館にて販売

支部だより

「天災・人災の中で」



原町別院修復風景(1)

2011年3月11日、地震と津波発生。12日原発が水素爆発し、炉心がメルトダウンしました。

私が住んでいる南相馬市では、

震災によって1046人が犠牲になり、未だに111人が見つかりません。地震・津波・放射能により、住むところを奪われた多くの方々が仮設住宅で生活されています。また、老人ホームや病院からは入所者や入院患者の方々が、ヘリコプターや自衛隊のトラックで救出され運び出されました。津波と放射能の拡散さえなければ、こんな辛い目には遭わなかったのです。

自宅に取り残され亡くなられた方を検視された医師は、胃の中に食べ物が残っていない人がたくさんいたと言われていました。雲の降る中で放置され凍え、餓死していった人がたくさんいたということなのです。

そのうえに、想定外?の人災によって原発の問題が降りかかってきました。科学技術の安全神話が脆くも崩れ去ったのです。



原町別院修復風景(2)

2年半余り経った今でも放射線量は高く、除染もなかなか進んでいません。除染で出た土・瓦礫の廃棄場所も決まらず、仮置き場もない状態です。小学校・中学校・高校の除染は終わっていますが、約4割の子供たちしか戻っていません。残り6割の子供たちとその親たちは各地に避難したままです。どうしたらいいのか答えはありませんが、ここで立ち止まることはできません。

各地の避難先から帰ってくるのは、茶毘に付せられた方々ばかりで、日に日に多くなっているのが大変気がかりです。

6月から東本願寺の復興支援センターが開設された原町別院（原発から23km地点）は、6ヵ月をか

けて修復・自費による除染も終わりました。原町別院が復興支援の中心になると同時に、心の救済場所にならなくてはならないと思っています。

福島県支部長 木ノ下 秀昭

「北海道人会」



2013年5月開催の北海道人会

北の大地から、谷大同窓生の方々へお便りします。北海道には15の同窓会支部があります。北海道では同窓生は寺院関係者がほとんどで、支部会員の把握や集まりは良好のようです。

さて、北海道の特色として「北海道人会」というものがあります。谷大在学中の北海道出身者が集まり、酒を酌み交わし、レクリエーションなどもして交流を深める集いです。その始まりは定かではありませんが、昭和30年代には既にあったようです。私が在学中の昭和50年代には盛んに活動していました。体育会系の先輩方に酒の飲み方を教えられた（強いられた?）ようです。その後、平成の代には何となく廃れてしまいました。そこで2006年、同窓会の総会には各支部長は前日から京都入りしているのだから、学生達を集めて組織を再構築しようということになりました。肉食べ放題で、学生の会費は安く、支部長はカンパを含めて高く、そこへ仏具店と法衣店の方も特別ご招待（手ぶらでは来ないことを期待して!）。文学部・短期大学部・大学院を合わせて毎年40人ほど該当者がおり、以後恒例となっています。授業の情報交換（単位の取りやすさ?）や、下宿の斡旋、家財道具の譲り渡しなど学生生活に大いに役立っています。また卒業後北海道に帰ってからも人脈は教化活動に活かされています。

逸話を一つ。今年は赤レンガ100周年ということですが、明治の北海道開拓で東本願寺が得た農地を、後に売却しその資金によって谷大の土地購入と赤レンガ本館建築が出来たのです。皆さん心に留め置きください!

深川支部長 松岡 満雄

トピックス

前学長の木村宣彰名誉教授が「鈴木大拙館」の館長に就任

前学長の木村宣彰名誉教授が、石川県金沢市にある「鈴木大拙館」の館長に4月1日付で就任されました。

木村名誉教授は自坊での法務や本学での授業といった忙しい日程にもかかわらず、富山県のご自坊から金沢市の「鈴木大拙館」に向かれています。

鈴木大拙先生は、本学教授を退かれた後も、ご自身が設立に関わられた東方仏教徒協会（イースタン・ブuddhist協会）での英文仏教雑誌『イースタン・ブuddhist』の発行を通じて、大乘仏教を世界に発信し続けられました。

「鈴木大拙館」に来館される一般の方々にも、鈴木大拙先生が大谷大学にゆかりの深い先生であることを知っていただきたいものです。

北陸にお出かけの際は、ぜひとも金沢市の「鈴木大拙館」にお立ち寄りください。兼六園の少し南側です。

鈴木大拙館の住所 石川県金沢市本多町3丁目4番20号

電話 076-221-8011



鈴木大拙館(写真提供：鈴木大拙館)

本学の鷲田清一教授が「せんだいメディアテーク」の館長に就任

本学哲学科の鷲田清一教授が、宮城県仙台市にある「せんだいメディアテーク」の新館長に4月1日付で就任されました。

鷲田教授は東日本大震災の後被災地をたびたび訪ねられており、奥山仙台市長が鷲田教授を新館長に推薦され、「せんだいメディアテーク」から館長就任の要請を受けていました。

東北地方にお出かけの際は、仙台市の「せんだいメディアテーク」にお立ち寄りください。「せんだいメディアテーク」までは、仙台市地下鉄・勾当台公園駅から徒歩約6分です。

「せんだいメディアテーク」の住所 宮城県仙台市青葉区春日町2-1
電話 022-713-3171

津村記久子さんが川端康成文学賞の受賞決定

本学国際文化学科の卒業生である津村記久子さんが、優れた短編小説に贈られる第39回川端康成文学賞を受賞することが選考会で決定されました。

受賞作品は、『文学界』2012年3月号に発表された「給水塔と亀」です。

なお、津村さんはこれまでも、第21回太宰治賞、第30回野間文芸新人賞、第140回芥川賞、第28回織田作之助賞を受賞されています。

母校だより

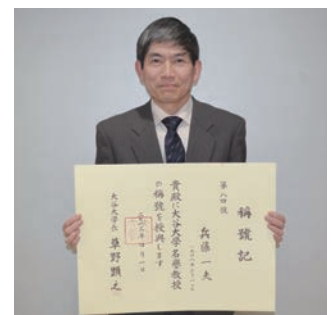
名誉教授の称号贈られる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が大内文雄先生（東洋史学）、木場明志先生（国史学）、兵藤一夫先生（仏教学）、安富信哉先生（真宗学）に贈られました。

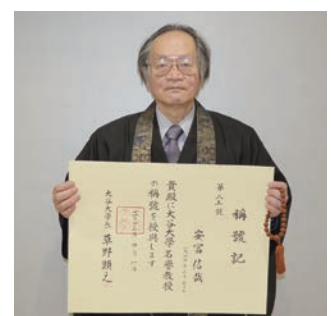
授与式は4月1日（月）に学長室において行われました。なお、木場明志先生はご都合がつかず授与式に出席することができませんでした。



大内文雄先生



兵藤一夫先生



安富信哉先生

山本和彦・織田顕祐両教授が、
博士（文学）の学位を取得

2012年12月24日、本学の山本和彦教授が、学位論文「インド新論理学の解脫論」により、2013年3月26日、本学の織田顕祐教授が、学位論文「華嚴教学成立に関する思想史的研究」により、大谷大学から博士（文学）の学位を取得されました。



山本和彦教授

織田顕祐教授

課程博士の学位を授与

2011年9月30日の2011年度前期学位記授与式において、博士後期課程修了者3名に「博士（文学）」の学位が授与されました。学位取得者は、戸次顕彰（仏教学）、金偉（JIN WEI）（仏教文化）、Elizabeth Noelle Tinsley（仏教文化）の各氏です。



（左より）戸次顕彰氏、金偉（JIN WEI）氏

また、2013年3月15日の学位記授与式においては、博士後期課程修了者7名に「博士（文学）」の学

位が授与されました。学位取得者は、藤原智（真宗学）、太田落子（仏教学）、金敬姫（仏教学）、一澤美帆（仏教文化）、福島重（仏教文化）、大艸啓（仏教文化）、安藤秀幸（仏教文化）の各氏です。



（左より）太田落子氏、藤原智氏



（左より）一澤美帆氏、福島重氏、大艸啓氏、安藤秀幸氏

人 事

（2012年9月21日～
2013年8月31日）

部科長等の交代

[学監・事務局長]

寺西 龍水

[教育・学生支援担当副学長]

[兼文学部長]

ローズ ロバート F. (前文学部長)

[研究・国際交流担当副学長]

浅見直一郎

(前真宗総合学術センター長)

[学生部長]

鈴木 寿志

(前学生部長 古川 哲史)

2013年4月1日付 (各通)

館長等の交代

[真宗総合研究所主事]

藤田 義孝

(前真宗総合研究所主事 采翠 晃)

[学寮長]

藤元 雅文

(前学寮長 富岡 量秀)

2013年4月1日付 (各通)

退職

* 定年退職

[教育職員]

岩渕 信明

(教授/文学部/教育・心理学科)

大内 文雄

(教授/文学部/歴史学科)

川村 覚昭

(教授/文学部/教育・心理学科)

木場 明志

(教授/文学部/歴史学科)

高山 芳治

(教授/文学部/教育・心理学科)

兵藤 一夫

(教授/文学部/仏教学科)

宮川 清司

(特別任用教授/文学部/文学科)

三谷 悦子

(任期制講師/文学部/教育・心理学科)

[事務職員]

伊藤三千夫 (企画・入試部)

* 契約期間満了による退職

[教育職員]

安富 信哉

(特別任用教授/文学部/真宗学科)

大草 輝政

(任期制助教/文学部/哲学科)

許 秀美

(任期制助教/文学部/国際文化学科)

工藤 克洋

(任期制助教/文学部/歴史学科)

松下 俊英

(任期制助教/文学部/仏教学科)

渡部 智也

(任期制助教/文学部/国際文化学科)

[事務系嘱託]

井倉 あい (学生支援部)

和泉 早保 (教育研究支援部)

白井 理恵 (総務部)

榎川みのり (教育研究支援部)

川原崎ふみ (学生支援部)

北村 文代 (教育研究支援部)

坂田 恵美 (学生支援部)

山下 晶江 (総務部)

[寮監]

天山 信楽 (貫練学寮)

[教職アドバイザー]

細谷 僚一

[実習アドバイザー]

牧野 一元

2013年3月31日付 (各通)

*** 依願退職**

[学監・事務局長]

長谷岡英信

2013年 3月31日付

[教育職員]

根来 麻子

(任期制助教/文学部/文学科)

2012年 9月30日付

山高 秀介

(任期制助教/文学部/真宗学科)

2012年10月31日付

廣田 大地

(任期制助教/文学部/国際文化学科)

2013年 3月31日付

[事務職員]

友永 真美 (総務部)

2012年12月31日付

中尾 達子 (教育研究支援部)

2013年 6月30日付

[技術職員]

林 光美 (総務部)

2012年 9月30日付

[寮監]

村田 知子 (自灯学寮)

2013年 3月31日付

新規採用

[学監・事務局長]

寺西 龍水

[教育職員]

木船 憲幸

(教授/文学部/教育・心理学科)

安田 誠人

(教授/短期大学部/幼児教育保育科)

岩淵 信明

(特別任用教授/文学部/教育・心理学科)

川村 覚昭

(特別任用教授/文学部/教育・心理学科)

高山 芳治

(特別任用教授/文学部/教育・心理学科)

井川 利尾

(任期制講師/文学部/教育・心理学科)

足立 和彦

(任期制助教/文学部/国際文化学科)

安藤 秀幸

(任期制助教/文学部/文学科)

上原 永子

(任期制助教/文学部/仏教学科)

大艸 啓

(任期制助教/文学部/歴史学科)

木島菜菜子

(任期制助教/文学部/国際文化学科)

難波 教行

(任期制助教/文学部/真宗学科)

古荘 匡義

(任期制助教/文学部/哲学科)

森 雅子

(任期制助教/文学部/国際文化学科)

[事務職員]

西村 陽貴 (学生支援部)

山内 麻慈 (企画・入試部)

[事務系嘱託]

石井 実穂 (教育研究支援部)

上西 量子 (学生支援部)

高峯 章子 (総務部)

中井 晴恵 (教育研究支援部)

西山 沙織 (学生支援部)

福岡由佳子 (教育研究支援部)

福吉 朋恵 (総務部)

松石 亜也 (学生支援部)

山田まりえ (教育研究支援部)

[寮監]

長松 真見 (貫練学寮)

林田真貴子 (自灯学寮)

[教職アドバイザー]

吉川 栄一

2013年 4月 1日付 (各通)

昇格

[教授]

木越 康 (文学部/真宗学科)

志藤 修史 (文学部/社会学科)

古川 哲史 (文学部/国際文化学科)

[准教授]

大城 邦義

(短期大学部/幼児教育保育科)

岡村明日香

(短期大学部/幼児教育保育科)

富岡 量秀

(短期大学部/幼児教育保育科)

三浦誉史加

(文学部/国際文化学科)

2013年 4月 1日付 (各通)

若槻俊秀名誉教授を偲んで



若槻俊秀先生が2013年2月13日に逝去された。71歳であった。

先生は1941年9月に長野県にお生まれになり、1971年5月に大阪大学大学院文学研究科博士課程(中国哲学専攻)を退学、大阪大学文学部助手を経て、

1973年4月に大谷大学文学部助手に着任、以後2007年3月に退職されるまで30数年にわたり本学で教鞭を執られた。その間、1990年より2年間の短期大学部長、2002年より5年間の同窓会理事長など、要職を歴任され大学運営にも貢献しておられる。

先生のご研究は中国哲学を中心とし、孔子と老荘から六朝文人の仏教受容にいたるまで、幅広く論じられた。その成果は多数の論考と著書にあらわされ、後学に裨益するところとなっている。また文学科中国文学コース、及び中国文学会の会長として、長らく会員の教員と学生を導いてこられた。国文学会と共同の文藝学会代表としての責務を

もはたされた。先生のお人柄はひとを引きつける魅力にあふれ、それは指導の場においてだけでなく、学生を交えた懇親会の席でも歌や踊りの披露となって、多くの学生に卒業以後も長く慕われるところとなった。

近年、急病を得て非常勤を辞され、以後ご体調がすぐれないことをお聞きしていた。在任中より長年にわたり毎週末ご自坊のある長野まで車を運転して通っておられた。お元気そうにしておられたが、われわれの目には見えぬお疲れがあったのかとお察しする。いまはどうぞしずかにお休みください。

大谷大学教授 乾 源俊

神戸和麿名誉教授を偲んで



本学名誉教授である神戸和麿先生が2013年3月2日(土)にご逝去された。法名は「樹心院積和貴」で、75年の御生涯であった。

先生は1939(昭和14)年11月に愛知県にお生まれになった。同朋大学仏教学科を卒業後、大谷大学大学院真宗学専

攻の修士課程および博士後期課程へと進まれた。1970(昭和45)年に同朋大学講師に採用、後に助教授になられた。1981(昭和56)年に大谷大学に移られ、助教授そして教授を務められた。

先生のご研究は仏教学に基づいた真宗学であった。親鸞の思想を中心に、多くのテーマ(仏陀観・浄土教・仏性・一闍提・阿闍世・仏弟子・法蔵菩薩・回向・名号・浄土・誓願一仏乘・浄土論・浄土論註・二尊の教・聖徳太子・源信・法然など)を研究された。さらには清沢満之関係の著書・論文も数多く、先生のご研究は大変広やかな内容をもつものであった。さらには大学をあげての研究や事業(清沢満之全集の編集・刊行など)でも中心的な役割を

果たされた。

学生指導に関しても、短期仏教科主任や文学部真宗学科主任を通して、学科の全体を導いていかれた。また短期大学部・文学部・大学院のクラスやゼミにおいては、勉学や論文、そして生活の指導など、多くの力を注がれた。さらに「尾州寮」(名古屋別院が運営する学生寮)の寮長を25年以上務められた。

先生は譬喩を巧みに用いられて、難しい内容も易しく話された。また酒席でのご指導も格別印象深いものがあった。先生の研究や教育、そしてお人柄に接して多くの学生が感化を受けた。長年にわたる先生のご指導と学恩を謝し、謹んで哀悼の意を表する次第である。

大谷大学教授 藤嶽 明信

岩田慶治先生を偲んで



岩田慶治先生は5年半、不自由な身を過ごされた後、2013年2月17日に旅立たれた。享年91歳であった。先日、同先生を語る会が催された。大阪市立大、東京工業大、国立民族学博物館、そして大谷大学時代の同僚や教え子が、遺影を傍らに思い出を語り合った。先

生は何気ないタイミングで、ものごとの前提にかかわる根源的な問いを発せられる。ものをみても、常人とは違う世界をそこにみられる。そんなエピソードが次から次へと披露された。

院生時に民博で先生と初めて会った時の印象は「偉丈夫」であった。背が高く、しっかりした体格。ギョロッと大きな目。オールバックの豊かな髪。黙っておられると「畏怖」に似た感情をもってしまふ。が、話しぶりはいたって穏やか。ホッと油断すると、突然の鋭い問いかけに窮する。そんな感じでいつも退散していた。しかし、先生のラオスやタイに関する精緻な人類学的調査報告は、私にとって手本であった。

その後の数々の御著作も、優れたフィールドワーカーによる「通り一遍の調査」を脱するための示唆として受けとめている。

先生が大谷大学に教授として着任されたのは1985年である。1992年まで校務に関わられた。その後も先生の存在は、大谷大学が大学院社会学専攻や文学部社会学科文化人類学分野を開く後押しとなる。私は先生在職の最後の2年間をともに過ごすことができた。それで結構満足していたが、先ほどの語る会でのエピソードをきき、フィールドでの先生を見る機会をもてなかったことが、今更ながらに残念になってしまった。

大谷大学教授 高井 康弘

藤谷昌紀先生を偲んで



本学元専任講師の藤谷昌紀先生が2012年7月15日(日)に逝去されました。1965(昭和40)年6月19日お生まれの先生は、まだ47歳でした。痛惜の念にたえません。

先生は、本学仏教学科を卒業された後、一旦社会でのお勤めを経て、比叡

山延暦寺が行った修行僧公募に応募され、2年間の修行を満了されました。その後、大学院に入れ、木村宣彰先生のもとで研究者としての歩みを始められました。先生のご研究の中心は、大乘の戒律思想で重要な地位を占める『菩薩瓔珞本業經』の成立とその受容でした。実社会の経験と伝統的な修行とを堅実な学問上に結びつけようとなさった藤谷先生は、何ごとにも全身全霊で取り組まれました。先生の授業は、寒い冬場でも大汗をかきながらの熱意のこもったものであったと受講生から聞かされました。何ごとにも手抜きをしないご性格の故か、体調を崩され、ご実家のある鹿児島に戻られました。

その後も体調が万全でないとい

てはいたものの、藤谷先生の訃報は私たちにとっては突然でした。既にご家族でご葬儀も済まされたとのことであり、先生の四十九日を期して、9月1日(土)に大谷大学の尋源講堂で「偲ぶ会」を持ちました。勤行の導師には、大学院の指導教員であった木村宣彰前学長が勤めて下さいました。夏休み中のことでもあり、また急なご案内であったにも拘わらず、多くの方が諸事を排してお集まり下さいました。藤谷先生のご人徳が改めて感じられたことでした。

大谷大学准教授 采翠 晃

クラブ紹介



大谷大学男声合唱団第79回定期演奏会(男声合唱団OB)

こんにちは、大谷大学男声合唱団です。主として仏教聖歌をレパートリーにしています。それ以外にも団員で歌いたいものを幅広く歌っておりますが、やはり比重は前者に置かれています。

普段の活動は、ボックスでの練習ですが、毎年一度ずつ学園祭での小さな演奏会と、年度末あたりに大学講堂などで定期演奏会を催しております。その他にはお寺の報恩講に呼ばれて出向くことなども度々あります。

演奏会の開催頻度からもわかるとおり、団員は減

少方向にあります。最盛期とは比較できないほどに減少しており、実は一度団員ゼロ、事実上の廃部状態から現在の人数に持ち直して(?)細々と活動しているのが現状です。

しかし、合唱団が長らく演奏会会場としてお世話になってきた大谷ホールが6月に改修され音楽ホールとしての機能を終える、すなわち我々が慣れ親しんできた大谷ホールの閉館に際し、男声合唱団

OB(コールリンドンクラブ)と合同で今年の2月に大きな演奏会を開きました。「ありがとう!大谷ホール」と銘打ち、これまでの感謝などを込めて、世代を超えて愛唱歌の数々を歌い上げました。

現役団員にとっては初めての大会でしたが、歌に込めた気持ちに違いはありません。これからもいろいろな出会いを通じて合唱の楽しさを感じていけたらと思います。

大谷大学男声合唱団 原田 恵幸



大谷大学箏曲部50周年記念演奏会

卒業生の皆さま、こんにちは。大谷大学箏曲部です。お箏や三味線など、日本の伝統楽器を奏でる部活動です。定期演奏会では、お隣の尺八部さんと共に三曲合奏や大合奏などをして、日々、音楽性の追究に励んでいます。

今年で創立50年を迎える箏曲部は、6月29日(土)に「箏曲部50周年記念演奏会」を開催いたしました。一曲目の「御代の祝」では、長年箏曲部をご指導くださっている野田弥生先生、現在尺八部をご指導くださっている雲井花山先生をお招きして、先生方と現役生の共演を果たしました。また、他の小曲枠では、尺八部・箏曲部の先輩方にご参加を募り、「三調の調」「六段の調」そして「北海民謡調」を演奏

していただきました。終曲の大合奏曲「石狩川<春>」では、指揮者に渡邊顕信先生をお迎えし、また、尺八部の先輩方14名にご参加いただき、迫力ある素晴らしい演奏会を行なうことができました。スタッフとしてご協力くださった先輩方を含め、多くの先輩方に参加していただき、歴史に残るとも思い出深い演奏会となりました。また、演奏会後の懇親会にもたくさんご参加いただきました。古き時代の思い出話をお話していただき、交流することで、先輩方にとっても、現役生にとっても有意義な時間を過ごすことができました。

現在、部員たちは11月15日(金)の定期演奏会に向かって頑張っています。より高い音楽性を目指してこれからも精進していきます。今後とも、大谷大学尺八部・箏曲部をお見守りくださいますようよろしくお願いいたします。

大谷大学箏曲部 片山 真枝

課外活動の成績等について

大谷大学のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

<http://www.otani.ac.jp/clubs/>

2013(平成25)年度 大谷大学博物館のご案内

●秋季企画展Ⅱ 赤レンガ100周年記念「赤レンガの^{まなびや}学舎」

会 期 2013年10月12日(土)～11月28日(木)

休 館 日 日曜日・月曜日

※10月13日(日)・11月24日(日)・25日(月)は開館

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

●冬季企画展 京都を学ぶ「京の町衆・神田家とその蔵書」

会 期 2013年12月10日(火)～2014年2月15日(土)

休 館 日 日曜日・月曜日、12月27日(金)～1月4日(土)、2月11日(火・祝)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 電話：075-411-8483
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

ミュージアムグッズ販売中

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインしたグッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。地方発送等も承ります(送料別)。

お問い合わせ・お申し込みは博物館(電話：075-411-8483)まで。

◆「小風呂敷」

45センチ×45センチ
 (日本地図を配したデザイン)
 1枚 1,200円

◆プレゼント用ケース

1個 100円



◆「ノート型付箋セット」

(表紙に「源氏物語屏風」
 を使用。手帳などにはさ
 めます)

1冊 500円



◆「トートバッグ」

40センチ×30センチ×8センチ
 (中国古印をデザイン)
 1個 1,500円



◆「ミニタオルハンカチ」

1枚 400円
 (2枚以上お買い上げで
 2枚目から350円)

◆プレゼント用ケース

1個 50円



2013年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では、本学の知的資産を基盤とした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めている講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テーマ	シリーズ世界の仏教③スリランカ・東南アジア (協賛：NPO法人「尋源舎」)
	講師	清水 洋平(大谷大学非常勤講師/大谷大学真宗総合研究所特別研究員)
	開講日	10月2日・10月16日・10月30日・11月13日・11月27日・ 12月11日 すべて水曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	9月18日(水)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

2	テーマ	教如上人400回忌記念講座 戦国の宗教者—本願寺教如
	講師	大桑 齊(大谷大学名誉教授)
	開講日	11月15日・11月22日・12月13日・12月20日・1月17日・ 1月24日 すべて金曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
受講料	6,000円(税込)	
申込締切	11月1日(金)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

3	テーマ	日本近代歌謡史 一明治篇—
	講師	沙加戸 弘(大谷大学名誉教授)
	開講日	10月10日・10月17日・10月24日・11月7日・11月14日・ 11月21日 すべて木曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
受講料	6,000円(税込)	
申込締切	10月3日(木)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

紫明講座のご案内

1	テーマ	戦国乱世の民衆 一その生きる力に学ぶ—
	講師	川端 泰幸(大谷大学講師)
	開講日	2月21日、2月28日、3月7日 すべて金曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	2月14日(金)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

2	テーマ	柳田國男の教育構想
	講師	関口 敏美(大谷大学教授)
	開講日	12月5日・12月12日・12月19日 すべて木曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	11月28日(木)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

3	テーマ	はじめて学ぶ親鸞
	講師	西本 祐攝(大谷大学短期大学部講師)
	開講日	10月22日・10月29日・11月5日 すべて火曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	30名(応募者多数の場合は抽選) ※初学者優先
	会場	響流館3F マルチメディア演習室
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	10月8日(火)必着	

4	テーマ	カフェで哲学④ 死生学の現在
	講師	藤枝 真(大谷大学准教授)
	開講日	12月14日・12月21日・1月11日 すべて土曜日
	時間	14:00～15:30 (第3回講義終了後、学内カフェで座談会を開催します)
	定員	30名(応募者多数の場合は抽選)
	会場	響流館3F マルチメディア演習室
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	11月29日(金)必着	

【申し込み方法】

講座案内パンフレットのご請求は、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号、④パンフレット希望、と明記の上、ハガキ、FAX、E-mailのいずれかにて下記までお知らせください。また講座をお申し込みの場合は、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号、④講座名、を明記の上、下記までお知らせください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係

TEL : 075-411-8161 (直通) FAX : 075-411-8162 E-mail : o_semi@sec.otani.ac.jp

同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を 囲んで



三桐ゼミ（文学部・仏教学科卒業）同窓会・公開研修会（2012.7.20）
昨年に続き第2回目の公開研修会を行いました。当日は三桐ゼミ同窓生と一般参加の方々と懐かしい三桐先生の講義を聞かせていただきました。学生の頃を思い出しながら楽しい時間を過ごしました。



1976（昭和51）年入学 育英学寮 同期会（2012.7.29～30）
金沢湯涌温泉で集まりました。みんなイイ歳になりました。楽しかったあ！



宮崎ゼミ16期生 同期会（2012.8.18）
毎年恒例の同期会も今年で5回目となりました。博物館を見学し学生時代を思い出し、夜は先生を囲み楽しいひとときになりました。



社会学科 昭和39年卒業クラス会（2012.8.22～23）
卒業以来、11回目のクラス会を行いました。4年ぶりなので皆、なつかしかりました。次会から毎年行うこととなりました。



大谷大学洗心学寮 昭和45年度入寮生同期会（2012.8.24～25）
木村先生ご夫妻をお迎えて、新潟で還暦過ぎの同期会。過ぎし日の記憶と懐かしさと近況報告。頑張ろう華の同期生。また会おう！

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名
2012. 7.20(金)	三桐ゼミ(文学部・仏教学科卒業) 同窓会・公開研修会	2012. 9.29(土)	大谷大学卓球部後援会総会・懇親会	2013. 2.19(火)	男声合唱団定期演奏会&コーロリデンクラブによるコンサート「ありがとう!大谷ホールー大谷ホール閉館によせてー」
2012. 7.29(日)	1976(昭和51)年入学 育英学寮 同期会	2012. 9.29(土)	直心行射会・OB総会・懇親会	2013. 3.16(土)	大内文雄教授退休記念謝恩会 (大内ゼミ卒業生)
2012. 8.18(土)	宮崎ゼミ16期生 同期会	2012. 9.29(土)	混声合唱団 OB・OG総会	2013. 3.24(日)	木場明志先生を囲む会
2012. 8.22(水)	社会学科 昭和39年卒業クラス会 ~23(木)	2012.10. 6(土)	大谷大学専門部昭和21年度卒業同期会	2013. 4.13(土)	自灯学寮(1984年入寮) 同窓会
2012. 8.24(金)	大谷大学洗心学寮 昭和45年度入寮 生同期会	2012.10.13(土)	国文学会 懇親会	2013. 5.14(火)	安富信哉特別任用教授 退任記念 祝賀会
2012. 8.25(土)	浄影会	2012.10.20(土)	第2回 貴練学寮第16期生 (1995年入寮) 同期会	2013. 5.21(火)	大谷大学33同期会 ~23(木)
2012. 8.26(日)	道交会総会(柔道部OB・OG会)	2012.11. 3(土)	1981年度 社会学科教育学専攻 卒業30周年同窓会	2013. 5.25(土)	第37回 浄眼洞(山田亮賢先生門下生の会)一夜研修会
2012. 8.28(火)	下鴨学寮43期生の会 ~30(木)	2012.11.10(土)	2001年卒業 佐藤義寛ゼミ 同期会	2013. 6. 4(火)	谷大同期会 IN 北海道 (昭和32年入学 36年卒業)
2012. 8.30(木)	大谷大学貴練学寮 1期生 同窓会	2012.11.17(土)	第5回 1986年入学 大谷大学体育会 同期会	2013. 6.10(月)	昭和34年度入学 フランス語クラス 会(岩見至教授)
2012. 8.30(木)	1965年入学 短期大学部 同期会 ~31(金)	2012.11.24(土)	谷雪会(大谷大学スキー競技部OB会)	2013. 6.17(月)	「昭和47年洗心学寮入寮生同窓会」 寮委員の先輩を囲んで
2012. 8.30(木)	寺川ゼミ大学院1・2期生 同期会	2012.11.25(日)	2003年卒業 大山ゼミ同窓会	2013. 6.22(土)	昭和52年卒業 大谷大学書道部同期会 ~23(日)
2012. 9. 1(土)	自灯学寮'82 同窓会 ~2(日)	2012.11.25(日)	バレーボール部 OB・OG会	2013. 6.24(月)	昭和42年入寮 洗心学寮同期会
2012. 9. 1(土)	大谷大学短期大学部 幼児教育科 21期生(1988年卒) Aクラス同窓会	2012.11.25(日)	大谷大学ギター部 OB・OGの集い (第1期生~第16期生)	2013. 7. 6(土)	第38回 大谷大学バスケットボール部OB・OG会
2012. 9. 2(日)	谷大40卒同窓会 (大谷大学S40年卒業生)	2012.11.26(月)	洗心学寮(昭和43年入寮) 同期会	2013. 7. 6(土)	宮崎ゼミ16期生 同期会 ~7(日)
2012. 9. 5(水)	第10回大谷大学育英学寮 (昭和30年4月)入寮者同期会	2012.11.28(水)	2010年卒業 フランス文化 番場ゼミ同期会	2013. 7.20(土)	大谷大学知真学寮 第一期生同期会
2012. 9.16(日)	国際文化学科 第一期生 (1997年卒業) 同窓会	2012.12.15(土)	央真会(大谷大学貴練学寮2002年 度入寮生同期会)第2回同窓会	2013. 7.27(土)	1981年度入学 IーG同窓会
2012. 9.16(日)	大谷大学文学部社会学科 昭和47年 卒業 高橋憲昭ゼミ卒業生同窓会	2013. 1.26(土)	2012年卒業 短期大学部 西村美紀ゼミ 同期会		
2012. 9.29(土)	大谷大学ワングル創部40周年記念 同窓会	2013. 1.31(木)	稲垣寮監先生退職慰労会(洛游会・ 昭和48年度育英学寮入寮生の会) ~2. 1(金)		
		2013. 2.16(土)	2004 ~ 2009年卒業 バレーボール部 OB・OG会		
		2013. 2.18(月)	大谷大学 貴練学寮第四期生 (1983年入寮) 同窓会		

開催をお世話いただく幹事さんへ

◆「同期会」「ゼミ・クラス会」「OB・OG会」等を開催される時は、事前にご連絡ください!

事務局は、大谷大学「尋源館」2階にあります

大谷大学同窓会本部事務局 (大谷大学総務部「校友センター」内)

<連絡先>TEL: 075-411-8124 (直通)

FAX: 075-411-8157 (直通)

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは、開催1か月前までに「同期会届」「OB・OG会届」をご提出ください。

◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。

◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生を対象としてご案内ください。

◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には、通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部事務局では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇「同窓会本部への申請書 提出」より「名簿・宛名ラベルのお届け」までは、1週間~10日程度かかります。(事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。)

2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇授業・大学行事等の関係上、利用できない場合があります。

利用を希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部事務局へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報「無盡燈」には、写真とともに開催結果を掲載します。

「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」についての詳細は、
同窓会本部事務局までお気軽にお問合せください。



浄影会 (2012.8.25)

残念ながら、古田先生が体調不良で御欠席されましたので、通例の浄影会として開催しました。先生の一日も早い御回復と、来年は先生にお会いできることを期して散会しました。



道交会総会 (柔道部OB・OG会) (2012.8.26)

残暑厳しい中、一年ぶりに道場に集いました。総会後の懇親会では昔話で大いに盛り上がりました。



下鴨学寮43期生の会 (2012.8.28 ~ 30)

九州の高田、宮長両君の心遣いで楽しい旅もできました。二日目は矢崎さんも合流し、再会を喜びました。来年は金沢で!



大谷大学書練学寮1期生 同窓会 (2012.8.30)

貫練学寮第一期生が30年ぶりに金沢へ集合。「いのう～え～」の掛け声はあの時のまま。寮歌の大合唱が深夜の片町に響きます。



1965年入学 短期大学部 同期会 (2012.8.30 ~ 31)

残暑厳しい中、石川で再会を喜び合いました。21世紀美術館・鈴木大拙館では、いろいろな世界に感動しました。



寺川ゼミ大学院1・2期生 同期会 (2012.8.30)

寺川先生の御お坊に伺って久しぶりに先生とお話させていただきました。アツという間に時間が過ぎ、再会を約束した事でした。



自灯学寮'82 同窓会 (2012.9.1 ~ 2)

自灯学寮1982年同窓会を初めて開き、湯の花温泉で一泊、翌日は懐かしの寮・大学を訪れて、学生時代に一気に戻った楽しい二日間でした。

2014玄奘三蔵の足跡を辿る ウズベキスタン8日間の旅 3月21日(金)~28日(金)

中央アジアの文明の十字路であったサマルカンド・仏教文化が栄えたテルメズや大唐西域記にある鉄門を訪れる旅です。



詳細はお問い合わせください。

新潟県知事登録旅行業3-278

(有)ワイ・トラベルサービス 担当: 横田

〒949-3422 新潟県上越市吉川区国田51

お問合せ TEL/FAX: 025-548-2902 携帯: 090-3217-5317



大谷大学短期大学部 幼児教育科 21期生 (1988年卒) Aクラス同窓会 (2012.9.1)

故・藤田先生のお導きで、10年ぶりの同窓会となりました。岡崎・山本先生にも来ていただき、とても楽しい時間を過ごせました。



谷大40卒同窓会 (大谷大学S40卒業生) (2012.9.2～4)

今回は2泊3日の北海道の研修旅行でした。北海道開拓を明治政府より命を受け、現如上人が大変な御苦勞をされたことを初めて知りました。



第10回大谷大学育英学寮 (昭和30年4月) 入寮者同期会 (2012.9.5)

この会は、近代化百周年記念同窓会を機縁に企画し、11年間で10回を京都で毎回会場を変えて開き、参加諸兄の懇親を深めています。



国際文化学科 第一期生(1997年卒業) 同窓会 (2012.9.16)

9月16日 (日) 新都ホテルにて国際文化学科一期生の同窓会を開催しました。大学時代を思い出し楽しいひと時を過ごしました。



大谷大学文学部社会学科 昭和47年卒業 高橋憲昭ゼミ卒業生同窓会 (2012.9.16)

卒業後初めての、しかも40年振りに恩師をお迎えしての同窓会となりました。名残惜しい中、再会を誓って散会いたしました。



大谷大学ワングル創部40周年記念同窓会 (2012.9.29)

10年ぶりの再会に、元祖“山ガール”“山ボーイ” (?) たちが時間のたつのも忘れて、山談義に花を咲かせました。



大谷大学卓球部後援会総会・懇親会 (2012.9.29)

創部80周年記念祝賀会より半年がすぎました。今回約45年ぶりに北海道新ひだか町より出席のOGもおられ、楽しいひと時をすごしました。



直心行射会・OB総会・懇親会 (2012.9.29)
弓道部再興50周年(平成28年)を迎えるにあたって、
学生諸君のより一層の御活躍を願っております。



混声合唱団 OB・OG総会 (2012.9.29)
創団時より何度も演奏会を開催した大谷ホールが
来年閉館です。今年のOB・OG総会は、さよなら
コンサートへの参加も兼ねて行いました。



大谷大学専門部昭和21年度卒業同期会 (2012.9.29)
専門部を修了して66年。会員も齢80半ばだが、大阪造兵廠への学徒動員
で同じ釜の飯を食べ、戦中の同じ経験を味わっただけに話題も尽きず、
一期一会の和やかな一時を過ごしました。



国文学会 懇親会 (2012.10.6)
大谷大学尋源講堂において大谷大学国文学会が開催されました。先師法要継
修に続き、今年度は同期大学特別任用教授である沼波政保先生に「方丈記
やぶにらみ」という題でご講演いただきました。



第2回 貴練学寮第16期生(1995年入寮)同期会
(2012.10.13)
5年ぶりに開催した同期会。東京での開催となった今回は、
大谷大学の前身、真宗大学の跡地も見学しました。



1981年度 社会学科教育学
専攻 卒業30周年同窓会
(2012.10.20)
少人数の開催となりましたが、
その分アットホームな同窓会
になりました。5年後でなく
忘年会の開催を約束し終了し
ました。

2001年卒業 佐藤義寛ゼミ 同期会 (2012.11.3)
佐藤先生が亡くなって初めての同窓会は寂しくなりましたが、先生も愛され
た中華を味わい、先生の思い出話にも花が咲きました。



第5回 1986年入学 大谷大学体育会 同期会 (2012.11.10)
 在学中より第5回目の同期会でした。ほぼ5年毎に開催してきましたが、45歳を過ぎて、1. 開催サイクルを早め2、3年毎としてはどうか。2. 全国各地持ち回りで開催しては。3. 宿泊付(できれば温泉地)の回を設けては等の提案が出ました。ご意見お寄せ下さい。



谷雪会 (大谷大学スキー競技部OB会) (2012.11.17)
 今回は若い世代が出席者の多くを占めました。4人と少ない部員ながら元気な姿に少し安堵感と頼もしさを感じました。



2003年卒業 大山ゼミ同窓会 (2012.11.24)
 卒業して9年。10年の節目を前に集まり、近況報告。大山先生が体調不良で参加できなかったのが、近いうちに第2回を開催したいと思います。



バレーボール部 OB・OG会 (2012.11.25)
 第36期OB・OG会を開催致しました。老若男女が一球のバレーボールを必死につなぐ姿は、人の「つながり」を感じさせる一時でした。



大谷大学ギター部 OB・OGの集い(第1期生～第16期生) (2012.11.25)
 ギター部創設以来、40年ぶりの集いとなりました。これを機に、17期生(1985年)以降にもその輪が広がることを願っています。



洗心学寮 (昭和43年入寮) 同期会 (2012.11.26)
 前回の開催から3年目の再会でした。体調を崩されていた小川一乗寮監先生も健康をとりもどされ、元気にご出席いただきました。



2010年卒業 フランス文化 番場ゼミ同期会 (2012.11.28)
 卒業してから初めての皆さんとの再会でした。皆さんの変わらず元気な姿を見てとても嬉しく思いました。これからも会いましょう。



中央真会 (大谷大学実践学寮2002年度入寮生同期会) 第2回同窓会 (2012.12.15～16)
 久しぶりの寮生ノリで楽しい時間を過ごすことができました。次回開催もより多くの仲間に見えるのを楽しみにしています。



2012年卒業 短期大学部 西村美紀ゼミ 同期会 (2013.1.26 ~ 27)
卒業、就職を経て集った西村ゼミ。悩み事も吐き出し心癒されたひととき。明日からみんなの笑顔を胸に、次集う日まで「またね！」



福田寮監先生退職慰労会 (洛会会・昭和48年度育英学寮入寮生の会)
(2013.1.31 ~ 2.1)
ひさしぶりに皆で寮歌を歌い、旧交を温めました。



2004 ~ 2009年卒業 バレーボール部 OB・OG会
(2013.2.16)
みんな体力は衰えていましたが、チームワークは現役以上に発揮でき、楽しい1日になりました。是非来年も開催したいです。



大谷大学 貫練学寮第四期生 (1983年入寮) 同窓会 (2013.2.18 ~ 19)
東北出身者がいたので仙台にて開催となりました。翌日は、観光・被災地視察・ボランティアの3班に分かれて行動しました。



男声合唱団定期演奏会 & コールリデンクラブによるコンサート「ありがとう!大谷ホール ー大谷ホール閉館によせてー」(2013.2.19)
現役、OB、そしてご来場の皆様の心が一つにとけ合い、仏教聖歌の豊かな響きに身をゆだねた、本当に有ること難いひと時でした。



大内文雄教授退休記念謝恩会(大内ゼミ卒業生)
(2013.3.16)

最終講義に引き続き、京都ガーデンパレスにて謝恩会を開催。いずれも卒業生ほか多くの参加者を得て、盛会裡に終わりました。



木場明志先生を囲む会 (2013.3.24)
木場明志先生のご退職にあたり、卒業生を中心に知己の者が集まりました。とても楽しいひとときをすごしました。



自灯学寮 (1984年入寮) 同窓会 (2013.4.13)
お変わりない大城先生や寮母さん、懐かしい友人達。29年ぶりの同窓会はとても楽しい一日となりました。



安富信哉特別任用教授 退任記念祝賀会 (2013.5.14)
安富信哉先生が特別任用教授着任後お世話になったゼミ生が集まり、先生と奥様を囲んで祝賀会を新都ホテル (京都) で行いました。

寺川俊昭選集 全11巻・別巻

第一巻 寺川俊昭選集刊行会編 各巻 定価 五、五〇〇円
第二巻 清沢満之論 第二巻 定価 五、五〇〇円
第三巻 教行信証論Ⅰ 第四巻 教行信証論Ⅱ
第五巻 教行信証論Ⅲ 第六巻 親鸞論Ⅰ
第七巻 親鸞論Ⅱ 第八巻 親鸞論Ⅲ
第九巻 僧伽論・蓮如論 第十巻 近代教学論
第十一巻 雑誌「親鸞教学」掲載論文集 近代教学論
別巻 補遺「浄土の教団・学びの足跡」他

『浄土論註』の思想究明
—親鸞の視点から—

延塚知道 著 定価 四、〇〇〇円
講讃 浄土論註 第一巻
延塚知道 著 定価 二、九四〇円
講讃 浄土論註 第二巻
延塚知道 著 定価 二、九四〇円

文栄堂
〒604-8091 京都市中京区寺町通三条上る
電話 075-231-4712
FAX 075-223-5243
E-mail bunedou@p750-net.ne.jp

いのち みなもと
「生命の玄」

食事を大切にする。
食事を大切に考えて作る。
食事する人を大切に思っ作る。
それが典座の精神、私たちの仕事です。

〒612-8429 京都市伏見区竹田西段川原町89番地
TEL 075-643-5700 FAX 075-643-5698
URL : <http://www.tenzo.co.jp>

※いつもご利用賜りまして誠にありがとうございます。平成7年より大谷大学学生食堂とBig Valley Cafeを運営させて頂いております。

株式会社 典座 Tenzo
HAPPY COOK



大谷大学33同期会 (2013.5.21 ~ 23)
昭和33年入学者23名と奥様3名、計26名が徳島・香川両県を中心に集いました。来年度はこれにプラス10名をめざしています。

第37回 浄眼洞 (山田亮賢先生門下生の会) 一夜研修会 (2013.5.25)
諸行無常の教えの通り、見た目はずいぶん変わりましたが、求道の情熱? は一向に変わりません。この後、泡の出る麦のジュースでうがいがいし、最後はいつもの大絶叫大会となりました。



谷大同期会 IN 北海道 (昭和32年入学 36年卒業) (2013.6.4 ~ 7)
6月4~7日 (3泊4日) にかけて、北海道の大沼・函館にて開催。
30名程の参加、歳を忘れて楽しく大いに盛り上がりました。



昭和34年度入学 フランス語クラス会 (岩見至教授) (2013.6.10 ~ 11)
毎年開催のクラス会を今回は大阪で開催し、8名の出席。一同、時間の許す限り懇話で盛り上がりました。岩見先生は欠席です。



「昭和47年洗心学寮入寮生同窓会」寮委員の先輩を囲んで (2013.6.17)
今回もたくさん集まり、1年ぶりの再会と寮監さん (木村名誉教授) の鈴木大拙館館長就任を喜び合いました。



昭和52年卒業 大谷大学書道部同期会 (2013.6.22 ~ 23)
大谷大学昭和52年卒業書道部同期会を開催しました。「誰かと共に生きる」大学時代に戻って、楽しい時間を過ごしました。



昭和42年入寮 洗心学寮同期会 (2013.6.24)
小川一乗寮監先生を囲み、40数年振りに昔話に花を咲かせました。これを機に毎年会を持つことに。来年は北海道にて楽しみに!!



第38回 大谷大学バスケットボール部OB・OG会 (2013.7.6)
7/6 (土) に第38回となるOB・OG会を開催しました。懇親会では、片岡友子会長の呼びかけで、今年で3回目となる東日本大震災の復興支援の募金を行い、OB・OG・現役から合計18,585円が寄せられました。



宮崎ゼミ16期生 同期会 (2013.7.6 ~ 7)
毎年恒例の同期会を開催しました。宮崎先生を囲み、時間が経つのを忘れて語り合いました。

『無盡燈』への 広告掲載募集!

会報『無盡燈』への広告掲載を募集しています。

同窓の皆さまが、現在お務めの企業広告や名刺広告など、同窓の皆さまのご協力・ご支援をお願い申し上げます。

広告掲載料金・申込方法は次のとおりです。

- ・全一段 (縦六cm×横一八cm) 一〇〇,〇〇〇円
- ・1/2段 (縦六cm×横八.九cm) 五〇,〇〇〇円
- ・1/4段 (縦六cm×横四.四cm) 二五,〇〇〇円

お申し込み・お問い合わせは、電話、FAXまたはEメールで「大谷大学同窓会本部」までお申し出ください。

TEL 〇七五-四一-八一二四
FAX 〇七五-四一-八一五七
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp



大谷大学知真学寮 第一期生同期会 (2013.7.20)
約20年ぶりに第一期生の同期会を開催しました。寮長の小谷信千代先生と寮監の織田顕祐先生がご出席して下さいました。



1981年度入学 I-G同窓会 (2013.7.27)
32年前にタイムスリップしたようなひと時でした。変わらない友情に感謝!

教育振興資金(募金)への御礼とお願い

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

なお、本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)、並びに税額控除に係る証明(税額控除制度)を受けていますので、寄付者(個人)の選択により、どちらか一方の税法上の減免税措置を受けることができます。

今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。2012年8月1日から2013年7月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件数 50件
◆寄付金総額 4,570,000円

2012年度分

[教育振興資金寄付者(敬称略)]

山本 起義(大阪府)	長谷岡英信(兵庫県)	木枝 宏行(京都府)	難波 明則(大阪府)	村田 徳治(高知県)
浅田 純(長崎県)	桑原 英世(栃木県)	加茂 博史(福井県)	加藤 博文(愛知県)	樽谷 和幸(広島県)
佐長 光祥(香川県)	山田 博隆(愛知県)	長尾 良正(福岡県)	天山 敬信(愛知県)	三輪 國典(大分県)
小原 博昭(鹿児島県)	板先 達(秋田県)	小森 輝之(京都府)	三井 英俊(愛知県)	西野 匠(京都府)
田中 康進(大阪府)	暉 了(新潟県)	奥野 尚雄(滋賀県)		

円徳寺[藤谷 伸宏](山形県) (有)石間企画事務所(東京都) NPO法人尋源舎(京都府)
匿名(個人12名、法人1団体)

◆件数 39件
◆寄付金総額 3,500,000円

2013年度分

[教育振興資金寄付者(敬称略)]

岩本 三郎(京都府)	三松 高一(福岡県)	西本 茂岐(和歌山県)	林 弘巳(長野県)	舟橋 尚哉(愛知県)
田宮 経夫(新潟県)				

善行寺[服部 浩善](岐阜県) (株)フラットエージェンシー(京都府)
匿名(個人3名)

◆件数 11件
◆寄付金総額 1,070,000円

※ご寄付につきましては随時受け付けています。

【お申し込み/お問い合わせ先】教育振興資金事務局
京都市北区小山上総町
大谷大学校友センター内
TEL 075-411-8124

本部報告

2012年度「卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」開催



藤島建樹同窓会長の挨拶

2013年3月15日（金）に「卒業証書ならびに学位記授与式」が挙行され、式典終了後の17時よりウェスティン都ホテル京都において、「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

この祝賀会は、卒業・修了をお祝いする「祝賀の会」であると同時に、「大谷大学同窓会」へのご入会を歓迎する「歓迎会」としての意味を込めて、「大谷大学」と「大谷大学同窓会」が共催する祝宴です。

草野顕之学長、藤島建樹同窓会長の祝辞の後、今年度の学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行なわれました。

その後、卒業・修了生を代表して文学部哲学科の久門紀子さんが



久門紀子さんによる乾杯



恩師との歓談

挨拶と乾杯の発声を行ない祝宴が始まりました。

アトラクションでは短期大学部幼児教育保育科卒業生全員による合唱と、教職員・卒業生有志による寮歌を披露していただき、祝賀会は大変盛り上がりを見せました。

また、学生生活も最後となるこの日、一時を惜しむかのように和やかな雰囲気の中、恩師そして友だちとの語らいが続けられていました。



幼児教育保育科の合唱

2012年度 学生支援表彰「菩提樹賞」を川井柚香さんが受賞



同窓会長より「菩提樹賞」を授与

3月15日（金）に開催されました「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」において、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行なわれました。

この「菩提樹賞」は、同窓会が学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生または課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って贈るものです。



喜びの川井柚香さん

今回は、学術部門で特に優秀と認められた、文学部教育・心理学科の川井柚香さんが表彰されました。川井さんは、第1学年時より積極的にオープンキャンパスや学科内行事、小学校・幼稚園でのボランティア等に参加されました。特に、京都市教育委員会「長期宿泊野外活動ボランティア」や、京都市立小学校における「京都市総合育成支援員」としても活躍され、参加学校から高い評価を受けられました。これらの活動を踏まえた4年間の大谷大学での学問・研究により、「京都市立学校教員採用選考試験」において小学校教諭として現役で合格されています。この成果は、大谷大学にとって大変名誉なことであり、このたびの表彰となりました。

今後、川井さんが一層活躍されることを期待しています。

2013年度 同窓会総会開催【報告】

2013年5月10日（金）13時30分より、博綜館第1会議室において、本年度の同窓会総会が開催されました。

議長に奈良支部長の當麻秀圓氏

が選出され、各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

1. 2012年度「事業報告」および「収支決算報告」
(下記「収支決算書」参照)

2. 役員の改選について

同窓会発展のために多大なるご尽力を賜りました関根良孝監事より、辞意表明のあったことが事務局より報告されました。

これまでは、学内常務理事の充て職として、「学監・副学長」「学監・事務局長」「学生部長」が学内常務理事に就任してきました。今年度の4月1日付で「大学執行部」の再編成が行われたことに伴い、「学生部長」の充て職について、今年度到新設された「教育・学生支援担当副学長」に変更することを提案し、承認されました。その結果、ロバート F. ローズ教育・学生支援担当副学長が、学内常務理事に就任いたしました。

また、4月1日付の学監・事務局長の交代に伴い、長谷岡英信前常務理事（前学監・事務局長）が退任しました。充て職人事として、寺西龍水学監・事務局長が4月1日付で常務理事に就任していることが報告されました。

任期満了に伴う全ての役員（会長・副会長・理事長・常務理事・理事・監事）の改選が行われ、下記のとおり決定いたしました。役員の任期は、会則第13条により2013年5月10日から2年間となります。

記

会長	藤島 建樹
副会長	北原 了義
副会長	等岳 兼昭
理事長	織田 顕祐
常務理事	稲垣 俊一
常務理事	柴田 達也

常務理事	武井 弥弘
理事	石川 正生
理事	井上 恵二
理事	大音 祖瑛
理事	奥村 豊
理事	加藤 隆昭
理事	北畠 顕信
理事	沙加戸 明
理事	菅原 信顕
理事	竹園 関
理事	吉田 法純
監事	朽木 明暁
監事	藤坂 初裕
常務理事	水島 見一
常務理事	寺西 龍水
常務理事	ロバート F.ローズ
常務理事	一楽 真
常務理事	宮崎 健司
常務理事	山崎 学

3. 「赤レンガ100周年 記念行事」について
大学が行う「記念事業」について

て報告がなされました。その後、同窓会として行う「記念行事」について提案され、了承されました。

4. 同窓会活動企画推進委員会に関する件

稲垣俊一第1部会長、宮崎健司常務理事（第1部会学内担当）から第1部会の部会活動報告がなされた後、「第18回ホームカミングデー開催要項（案）」が提案され、承認されました。

続いて、柴田達也第2部会長、一楽真常務理事（第2部会学内担当）より、部会の活動報告として「支部総会および夏季八十講」ならびにNPO法人「尋源舎」の活動について報告がなされ、承認されました。

5. 2013年度「事業計画」および「収支予算（案）」
(下記「収支予算書」参照)

2012年度
大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】		(単位 円)
科 目	決算額	
1. 前年度繰越金	7,001,009	
2. 会 費	28,341,000	
会費(1)	1,461,000	
会費(2)	26,880,000	
3. 入 会 金	4,480,000	
4. 出版物等売上金	28,500	
5. 雑 収 入	1,818,399	
合 計	41,668,908	

会費(1): 1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費
会費(2): 2012年度卒業・修了生の終身会費

【支出の部】

【支出の部】		(単位 円)
科 目	決算額	
1. 事 業 費	13,140,743	
本部事業費	3,449,262	
支部事業助成費	4,786,860	
同期会・OB会等開催助成費	610,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	3,794,621	
2. 刊 行 費	3,492,697	
無盡燈刊行費	2,599,958	
印刷製本費	892,739	
3. 事 務 費	3,252,415	
本部事務局費	3,863	
活動費	432,000	
通信費	2,816,552	
4. 旅 費	6,994,177	
5. 会 議 費	1,381,315	
6. 委 託 費	1,623,979	
7. 雑 費	321,614	
8. 同窓会基金への繰入支出	221,054	
9. 同窓会活性化準備金	735,000	
10. 予 備 費	0	
11. 次年度繰越金	10,505,914	
合 計	41,668,908	

2013年度
大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】		(単位 円)
科 目	予算額	
1. 前年度繰越金	10,505,914	
2. 会 費	26,850,000	
会費(1)	1,350,000	
会費(2)	25,500,000	
3. 入 会 金	4,250,000	
4. 寄 付 金	900,000	
5. 出版物等売上金	0	
6. 雑 収 入	844,086	
合 計	43,350,000	

会費(1): 1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費
会費(2): 2013年度卒業・修了生の終身会費

【支出の部】

【支出の部】		(単位 円)
科 目	予算額	
1. 事 業 費	15,900,000	
本部事業費	4,610,000	
支部事業助成費	5,290,000	
同期会・OB会等開催助成費	900,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	4,600,000	
2. 刊 行 費	5,040,000	
無盡燈刊行費	3,320,000	
印刷製本費	1,720,000	
3. 事 務 費	4,804,000	
本部事務局費	70,000	
活動費	444,000	
通信費	4,290,000	
4. 旅 費	8,700,000	
5. 会 議 費	1,650,000	
6. 委 託 費	2,200,000	
7. 雑 費	500,000	
8. 同窓会基金への繰入支出	200,000	
9. 同窓会活性化準備金	3,500,000	
10. 予 備 費	856,000	
合 計	43,350,000	

同窓会費の納入のお願い

本学同窓会は、同窓の皆さまと母校との連繫を図ることを目的に、同窓会総会等の諸会議の開催、支部総会・夏季八十講への補助、ホームカミングデーの開催、新入会員歓迎祝賀会の開催、会報誌『無盡燈』の発行・送付、ゼミ・クラスの同期会及びクラブのOB・OG会への補助等の事業を展開しています。

このような事業の財政基盤は、同窓の皆さまから納入していただく同窓会費（終身会費と年会費）

と寄付金によって賄っています。

現在同窓会員は約36,000名ですが、そのうち2/3が終身会員（1992年3月以降の卒業・修了の方は、入会時に終身会費を納入していただいております）、1/3が通常会員（1991年9月以前の卒業・修了生で終身会員以外の方）となっています。

同窓会活動は、側面から大学を支えて、母校の更なる発展に寄与するために、ますますの活性化が強く求められています。このため

にも、同窓会活動へどうか温かいご理解とご支援を賜わり、年会費または終身会費、寄付金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

いずれの場合も、同封の払込取扱票（郵便局扱）をご利用いただけますと手数料は不要です。

なお、通常会員から終身会員への変更も可能です。詳しくは、同窓会本部（電話：075-411-8124）までお問い合わせください。

第17回ホームカミングデーを開催（報告）



草野顕之学長の挨拶

同窓会ホームカミングデーが、学園祭（「紫明祭」）開催期間中の2012年11月10日（土）に開催されました。退職された先生や現役の先生にもご出席いただき、同窓生やそのご家族など約230名の参加がありました。



先生と参加者学内散策

2時間のフリータイム中には、参加型イベント「谷大ハテナ?〜

どれがホント?〜」を行ないました。さまざまな年代の大谷大学にちなんだクイズに、参加者同士で相談しながら挑戦していただきました。クイズには懐かしい「制帽」に関する問題も出題されました。会場には同窓生よりお借りした制帽を展示し、参加者は実物を眺めながら、クイズに解答されました。



クイズの説明

また、2012年度は新しい試みとして、前年度に「同窓会による学園祭模擬店表彰」を受賞した「GLOBAL SQUARE」に、ホームカミングデー会場で模擬店の商品の販売を依頼しました。韓国のお菓子である「ホットク」を食べながら、在学生との交流も図られました。

なお、恒例となりました同窓生の投票による模擬店表彰団体には、2年連続で「GLOBAL SQUARE」が選ばれ、翌日の学園祭模擬店表彰で同窓会より表彰されました。



クイズへ挑戦

ホームカミングデーのエンディングでは、参加型クイズイベントの参加者に「同窓会役員」「同窓会支部（全国に80ある地域支部）ならびに支部長」よりご提供いただいた特産品が贈られました。この特産品は、ホームカミングデーの盛会と同窓会の活性化を願い、ご提供いただいたものです。ホームカミングデー当日までに会場に並べきれないほどのお品が届き、会場にて参加者にご披露いたしました。



クイズの答え合わせ

敬 弔

同窓会発展のためご尽力賜
りました同窓会の前副会長、
元理事長、支部長、前支部長
がご逝去されました。

同窓会前副会長・元東京支部長
二階堂 行邦氏
2013年2月22日 ご逝去

同窓会元理事長
若槻 俊秀氏
2013年2月13日 ご逝去

同窓会名寄支部長
大澤 秀磨氏
2013年7月13日 ご逝去

同窓会前尾張学友会支部長
神戸 和磨氏
2013年3月2日 ご逝去

ここに深甚の謝意を表し、
謹んでお悔やみ申しあげます。

**支部長・事務局交代等のご紹介
ありがとうございました
よろしくおねがいたします**

〈室蘭支部長〉 新 保 宗 之
(前支部長 飯尾哲也)

〈名寄支部長〉 岩 城 史 如
(前支部長 故 大澤秀磨)

〈山形支部長〉 高 橋 晃 俊
(前支部長 織江祐智)

〈東京支部長〉 堀 江 明 光
(前支部長 松下晃建)

〈上越支部長〉 滋 野 憲 雄
(前支部長 直江智成)

〈郡上支部長〉 佐々木 元
(前支部長 故 和田正之)

〈尾張学友会支部長〉 一 柳 啓 史
(前支部長 故 神戸和磨)

〈湖東支部長〉 深 尾 浄 信
(前支部長 安倍彰雄)

〈湖南支部長〉 木 村 清
(前支部長 高木文善)

〈久留米支部長〉 清 原 瑛 通
(前支部長 廣瀬海宗)

〈東京支部事務局〉 八 田 裕 生
(前事務局 碧海 宏)

〈三条支部事務局〉 五 辻 広 大
(前支部事務局 史陀浩輝)

〈湖南支部事務局〉 寺 岡 昌 博
(前支部事務局 上寺和親)

新たに発足した支部事務局

〈福岡支部事務局〉 國 友 一 法

〈佐賀支部事務局〉 野 中 義 文

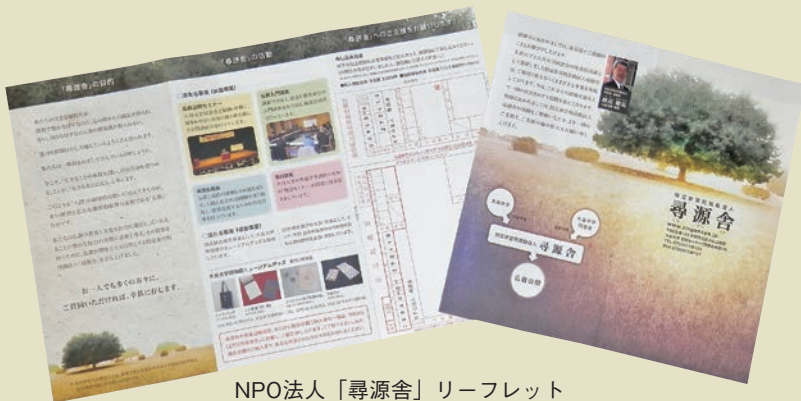
**2013年度「大谷大学・同窓会
全国縦断夏季八十講」ならびに
支部総会の開催について**

今年度も7月から9月にかけて、
「大谷大学・同窓会 全国縦断 夏
季八十講」ならびに「支部総会」
を全国73支部68会場で開催いたし
ました。

夏季八十講は、全国に80支部あ
る同窓会支部と大谷大学とが協働
して講演会を開催するもので、同
窓生・在学生はもとより広く一般
市民にも公開され、地域社会の文
化興隆に大きな役割を果していま
す。

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」について

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」は、同窓会が設立母体となって、2006年12月
に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。
尋源舎は、皆さまからの賛助金(一口3,000円)で活動を行っています。
お問い合わせは、大谷大学同窓会本部(電話:075-411-8124)まで。



NPO法人「尋源舎」リーフレット



深川支部



飛騨支部



尋源仏教塾



仏教入門講座



山梨支部

2013年度 大谷大学・同窓会 全国縦断 夏季八十講

統一テーマ：生きる力

● 東海地区

静岡県 8月31日(土) 鈴木 寿志 准教授 地球に生きる私たち 一過去・現在・未来—
三為会 9月 4日(水) 采翠 晃 准教授 生きる力 一鳩摩羅什の生涯を通して—
尾張学友会 9月 4日(水) 一桑 真 教授 生きる力
三重 8月21日(水) 藤元 雅文 講師 生きる力 一親鸞聖人の聞思に学ぶ—
大垣 9月 3日(火) 一桑 真 教授 生きる力
岐阜 9月 2日(月) 山田 恵文 講師 生きる力 一親鸞に学ぶ—
郡上 8月22日(木) 藤元 雅文 講師 生きる力 一親鸞聖人の聞思に学ぶ—
飛騨 8月 3日(土) 藤原 正寿 准教授 生きる力

● 北陸地区

富山 8月 6日(火) 加来 雄之 教授 生きる力 一真宗学の視座から—
高岡 8月29日(木) 門脇 健 教授 生きる力
金沢 8月 5日(月) 加来 雄之 教授 生きる力 一真宗学の視座から—
能登 8月21日(水) 佐賀枝夏文 教授 生きる力 一人生のものがたり—
小松 8月20日(火) 佐賀枝夏文 教授 生きる力 一人生のものがたり—
大聖寺 8月22日(木) 佐賀枝夏文 教授 生きる力 一人生のものがたり—
福井 9月11日(水) 山田 恵文 講師 生きる力 一親鸞に学ぶ—

● 近畿地区

長浜 8月 8日(木) 富岡 量秀 准教授 育ちと「生きる力」の獲得
湖東 9月 7日(土) 水島 見一 教授 生きる力
湖南 8月25日(日) 三木 彰円 准教授 親鸞における「聞思」の課題
湖西 8月 4日(日) 加来 雄之 教授 生きる力 一真宗学の視座から—
山城 9月14日(土) 藤本 芳則 教授 子育てと絵本
丹但 8月 3日(土) O.P. F.O.Z 教授 生きる力 一願(ねがい)をかけられて生きるわたし—
大阪北・大阪市・大阪東・大阪南 9月6日(金) 織田 顕祐 教授 生きる力 一親鸞における聖徳太子—
和歌山 8月26日(月) (支部総会のみ)
奈良 8月24日(土) 三木 彰円 准教授 親鸞における「聞思」の課題
播磨 8月31日(土) 草野 顕之 学長 生きる力 一教如上人の石山籠城をめぐる—

● 中国・四国地区

島根 9月 1日(日) 草野 顕之 学長 生きる力 一教如上人の石山籠城をめぐる—
岡山 8月20日(火) 富岡 量秀 准教授 育ちと「生きる力」の獲得
福山 9月 7日(土) 藤原 正寿 准教授 生きる力
広島 9月 6日(金) 藤原 正寿 准教授 生きる力
山口 8月31日(土) 山下 憲昭 教授 いま、あらためて向う三軒両隣
一くらしの共同性の意義を考える—
四国 8月28日(水) 井上 尚実 准教授 生きる力、生きなおす力 一釈尊と親鸞に学ぶ—

● 九州地区

福岡 9月 7日(土) 東館 紹見 准教授 いのちと光に出会う 一3・11から今日までの想い—
久留米 9月 6日(金) 東館 紹見 准教授 いのちと光に出会う 一3・11から今日までの想い—
佐賀 8月 6日(火) 谷口奈青理 准教授 生きる力
大分 8月29日(木) 西本 祐攝 講師 生きる力
北九州 8月27日(火) 井上 尚実 准教授 生きる力、生きなおす力 一釈尊と親鸞に学ぶ—
長崎 8月30日(金) 西本 祐攝 講師 生きる力
熊本 8月 7日(水) 富岡 量秀 准教授 育ちと「生きる力」の獲得
宮崎 8月28日(水) 西本 祐攝 講師 生きる力
鹿児島 9月 6日(金) 山下 憲昭 教授 いま、あらためて向う三軒両隣
一くらしの共同性の意義を考える—

● 北海道地区

函館 7月28日(日) 沙加戸 弘 名誉教授 親鸞聖人誕生
小樽 7月25日(木) 草野 顕之 学長 生きる力 一教如上人の石山籠城をめぐる—
札幌・岩見沢・夕張 7月26日(金) 草野 顕之 学長 生きる力 一教如上人の石山籠城をめぐる—
砂川 7月 5日(金) 小谷信千代 名誉教授 死後往生の教説の意味
室蘭 7月29日(月) 沙加戸 弘 名誉教授 身命ヲカヘリミズシテ
深川 7月27日(土) 草野 顕之 学長 生きる力 一教如上人の石山籠城をめぐる—
旭川 7月 4日(木) 小谷信千代 名誉教授 死後往生の教説の意味
十勝 7月28日(日) 木村 宣彰 名誉教授 生きる力 一五濁の時代に念仏の導きを—
網走 7月27日(土) 高井 康弘 教授 生きる力 一社会学と文化人類学の視点から—
紋別 7月26日(金) 高井 康弘 教授 生きる力 一社会学と文化人類学の視点から—
名寄 7月25日(木) 高井 康弘 教授 生きる力 一社会学と文化人類学の視点から—
釧根 7月27日(土) 木村 宣彰 名誉教授 生きる力 一五濁の時代に念仏の導きを—

● 東北地区

青森 8月29日(木) 平野 寿則 准教授 木食遊行僧の宗教と実践
岩手 8月21日(水) 宮崎 健司 教授 生きる力 一歴史にみる人々の生活—
宮城 8月27日(火) 平野 寿則 准教授 木食遊行僧の宗教と実践
秋田 8月22日(木) 宮崎 健司 教授 生きる力 一歴史にみる人々の生活—
山形 8月26日(月) 平野 寿則 准教授 木食遊行僧の宗教と実践

● 関東地区

茨城 8月29日(木) 一桑 真 教授 生きる力
栃木 8月27日(火) 一桑 真 教授 生きる力
群馬 8月28日(水) 一桑 真 教授 生きる力
埼玉 9月 7日(土) 田中久美子 准教授 穏やかに、しなやかに生きる
千葉 9月 1日(日) 山田 恵文 講師 生きる力 一親鸞に学ぶ—
東京 8月 5日(月) 木越 康 教授 生きる力
神奈川 8月 3日(土) 宮崎 健司 教授 生きる力 一歴史にみる人々の生活—
山梨 8月 4日(日) 木越 康 教授 生きる力

● 信越地区

信濃学友会 9月3日(火) 采翠 晃 准教授 生きる力 一鳩摩羅什の生涯を通して—
三条 9月 6日(金) 田中久美子 准教授 穏やかに、しなやかに生きる
上越 8月27日(火) 門脇 健 教授 生きる力



●お問い合わせ:大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8124

同窓通信

「魔法少女と小説家」

木爾 チレン

(大谷大学文学部卒業)

構内で最も居心地がよかったのは図書館だ。本の匂い、一人ぼっちではない静けさ、大きな窓の向こうに見える冴えない景色、どれもが好きだった。四年間を思い返せば、私は図書館ばかりにいる学生だったと思う。授業と授業の間も、図書館の奥まった場所にある青い椅子で居眠りをしていたし、放課後になれば、毎日のように心に魔法をかけてくれる小説を探しに行った。

少女だった頃から、夜更かしをして文章を組み立てているときがいちばん幸せで、いつか小説家になりたいと思っていた。その気持ちは大学生になっても変わらなかったけれど、それは、もっと小さかった頃に思っていた魔法少女になりたいという願いと同じような真剣さだったと思う。真剣に願ってはいるが、ここがアニメの中と同じような世界だったとしても、魔法少女になれるチャンスなんて滅多に降ってくるものではない。そして、ただ出鱈目な呪文を唱えるだけでは魔法は使えないのだ。魔法少女になる為には、選ばれた女の子になり、魔法少女になるための契約をし、呪文を覚え、いかなる窮地の場面に立っても、冷静に魔法を使いこなさなければならない。そうじゃない

と敵に負かされて死んでしまう。小説家は、魔法少女と違って、真剣に文章と向き合えば、才能次第で選ばれた人間になれる。でも、文章という呪文を思うままに操れなければ、誰かの心に魔法なんてかけられない。

卒業式の翌日、受賞を知らせる電話が鳴り、私は奇跡的に選ばれた女の子になった。けれど私はまだ、少しの人の心にしか魔法をかけられていない。だから、これからもっと色々な場面で戦って、強くなって、沢山の人の感情を一斉に動かせるような、強力な魔法を使えるようになりたい。そして心はいつまでも、魔法少女に憧れていたあの頃のまま、純粋な気持ちで文章を書いていたと思う。著書「静電気と、未夜子の無意識。」幻冬舎刊行
(小説家)



現役教員からのお便り ▶▶▶

大学という街

大谷大学教授 (仏教学) 山本 和彦

同窓生のみなさんは社会で大いに活躍されていることと思います。大学は小さな街です。昔から図書館や食堂はありましたが、いまではコンビニやカフェもあります。一日中いても飽きることはない場です。

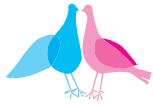
毎年インド研修で訪れているインドのナーランダという仏教僧院には、世界中からやって来るたくさんの留学僧たちが住んでいた部屋もありました。そこには中国の三蔵法師・玄奘も留学していました。いまは遺跡としてしか残っていませんが、かつては非常に大きな国際的な僧院でした。

大谷大学は小さな大学ですが、世界中からの留学生が学んでいます。もっとたくさんの留学生が

学びに来てくれれば、学食のメニューもキャンパス内の言語も国際的になるでしょう。街の価値は大きさではなく、活気があるかどうかで決まります。仏教学科の教員としては、本学は世界の仏教学研究の中心地として常に活気のある場であり続けてほしいと願っています。

同窓生のみなさんは再び学ぶためでも遊びのためでも、いつでもキャンパスに戻って来てください。ちなみに、私の研究室は博綜館5階に移動しました。





ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

() 内は最終卒業・修了年(敬称略) ※同窓会本部 7月31日現在 掌握分



※大谷大学尋源講堂で仏前結婚式をお受けしています。
お問い合わせは、総務課(電話：075-411-8163)まで。

- | | | | | | |
|---------------------------|---|---------------|---------------|---|---------------|
| 福島 重 (2010博) | ● | 鈴木 徳子 (2003文) | 小田 全範 | ● | 石浦みずえ (会友) |
| 黒田 雄頭 (2011修) | ● | 川那邊美法 (2011修) | 小笠原 翔 (2010短) | ● | 川村 沙織 |
| 亀崎 真量 (2009修) | ● | 大谷めぐみ (2007博) | 栗原 浄如 (2006文) | ● | 数田 祥子 (2007文) |
| 幸林 芳武 | ● | 田村有美子 (会友) | 中川 幸平 (2010文) | ● | 秋吉 鈴美 (2007文) |
| 早藤 立紀 | ● | 櫻居 朋美 (2008文) | 小門 真 | ● | 静永奈央子 (会友) |
| Conway Michael J. (2009博) | ● | 小林佳代子 | 中村 一登 (2008文) | ● | 辻 佳歩 (2009文) |
| 成宮 徹 | ● | 友永 真美 (1997文) | 福原 啓太 | ● | 北村 悦子 (会友) |
| 酒井 恵光 (会友) | ● | 土屋 亜希 | | | |

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

() 内は最終卒業・修了年(敬称略) 年月日はご逝去された日付

※同窓会本部 7月31日現在 掌握分

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 安川 千鶴 短期 (1972) 2011. 4 .22 | 武田 淳一 大学部 (1952) 2012. 8 . 6 | 高科 完英 大学部 (1948) 2013. 1 .21 |
| 宮城 龍暁 大学部 (1946) 2011. 8 .11 | 藤木 公明 文学部 (1965) 2012. 8 .11 | 加藤 法流 文学部 (1957) 2013. 1 .25 |
| 杉園 友生 大予科 (1945) 2011.12. 3 | 一島 徹 文学部 (1960) 2012. 8 .14 | 富樫 雅好 文学部 (1955) 2013. 1 .30 |
| 上田 淳子 文学部 (1960) 2011.12. 4 | 小野 常正 大学部 (1953) 2012. 8 .17 | 山村 宣昭 文学部 (1958) 2013. 1 .30 |
| 梅山 慧子 文学部 (1966) 2012. 1 . 7 | 静谷 潤 文学部 (1974) 2012. 8 .21 | 石原 祐信 文学部 (1956) 2013. 1 .31 |
| 藤棚 慶友 文学部 (1954) 2012. 1 . 8 | 藤原 弘宣 文学部 (1961) 2012. 8 .31 | 近藤 正辰 文学部 (1983) 2013. 2 .10 |
| 井家 譲 大専門 (1936) 2012. 1 .16 | 北辺 智雄 大学部 (1952) 2012. 9 . 2 | 久末 純美 文学部 (1954) 2013. 2 .10 |
| 佐々木廣行 文学部 (1959) 2012. 2 . 7 | 松岡 元雄 修 士 (1962) 2012. 9 .17 | 若槻 俊秀 修 士 (1967) 2013. 2 .13 |
| 亀田 文夫 文学部 (1962) 2012. 2 .22 | 工藤 秀和 文学部 (1973) 2012. 9 .24 | 竹田 一夫 大学部 (1948) 2013. 2 .14 |
| 豊浦 好恵 大学部 (1943) 2012. 3 . 9 | 緒方 美穂 文学部 (1985) 2012. 9 .27 | 岩田 慶治 会 友 (一) 2013. 2 .17 |
| 熊谷 寛 大学部 (1941) 2012. 3 .12 | 東田 和久 文学部 (1960) 2012.10. 2 | 三輪 徳雄 文学部 (1958) 2013. 2 .18 |
| 厚見 道生 修 士 (1975) 2012. 3 .22 | 清水 淳 大専門 (1951) 2012.10. 5 | 森 智誠 大学部 (1941) 2013. 2 .18 |
| 宜春 秀顕 文学部 (1974) 2012. 4 . 1 | 義栄 龍純 文学部 (1984) 2012.10. 9 | 二階堂行邦 大学部 (1953) 2013. 2 .22 |
| 篠原 孜 文学部 (1964) 2012. 4 . 4 | 末井 敬信 大専門 (1948) 2012.10.10 | 渡辺 浩道 文学部 (1977) 2013. 2 .28 |
| 大場 厚順 文学部 (1955) 2012. 4 . 9 | 井上 勝 短期 (1954) 2012.10.15 | 神戸 和磨 博 士 (1967) 2013. 3 . 2 |
| 丹羽 滋 文学部 (1984) 2012. 4 .14 | 荒木 昭泉 文学部 (1956) 2012.11. 5 | 波佐谷順成 大専門 (1941) 2013. 3 . 4 |
| 井上 文克 大学部 (1946) 2012. 5 . 6 | 山内 伸三 文学部 (1967) 2012.11. 7 | 細川 闡教 短期 (1954) 2013. 3 . 7 |
| 間島 憲成 短期 (1958) 2012. 5 . 6 | 成川 邦秀 文学部 (1954) 2012.11.17 | 松尾 賢静 文学部 (1957) 2013. 3 . 8 |
| 秦 治人 博 士 (1977) 2012. 5 . 9 | 佐伯 祐光 大学部 (1950) 2012.11.19 | 増田 昭 大専門 (1948) 2013. 4 . 2 |
| 加藤 一乗 文学部 (1961) 2012. 5 .13 | 木下 嶺 文学部 (1957) 2012.11.23 | 蓮元 憲恵 文学部 (1960) 2013. 4 . 4 |
| 佐々木 保 文学部 (1961) 2012. 5 .18 | 朝倉 宣夫 短期 (1953) 2012.11.26 | 笠原 秀恵 修 士 (1968) 2013. 4 .15 |
| 高峯 宣昭 文学部 (1968) 2012. 5 .27 | 千田 浄信 文学部 (1962) 2012.11.26 | 龍谿 淳 短期 (1952) 2013. 4 .29 |
| 原田 光昭 短期 (1993) 2012. 5 .31 | 江藤 孝之 短期 (1963) 2012.12. 2 | 鈴木 清 大学部 (1946) 2013. 5 . 4 |
| 石川 一登 文学部 (1954) 2012. 6 .10 | 相場 昭男 文学部 (1953) 2012.12. 5 | 橘 宣忠 文学部 (1967) 2013. 5 . 8 |
| 島野 靖 大学部 (1953) 2012. 6 .14 | 川村 秀了 文学部 (1972) 2013. 1 . 1 | 関山 和夫 大学部 (1952) 2013. 5 . 9 |
| 楠 芳文 大学部 (1941) 2012. 7 .12 | 古川 智徳 大学部 (1947) 2013. 1 . 2 | 片野 博 文学部 (1982) 2013. 5 .18 |
| 上本 信行 短期 (1977) 2012. 7 .27 | 加藤 暁 文学部 (1954) 2013. 1 . 3 | 細川 道夫 大予科 (1943) 2013. 5 .19 |
| 日野 真亮 文学部 (1957) 2012. 7 .31 | 城丸 兼宏 文学部 (1964) 2013. 1 .13 | 織田 顕信 修 士 (1962) 2013. 6 .15 |
| 原尻 建志 文学部 (1964) 2012. 8 . 5 | 石井多美子 短期 (1975) 2013. 1 .21 | 大澤 秀磨 修 士 (1978) 2013. 7 .13 |

菩提樹

B O D A I J U

「菩提樹の学舎」 まなびや



大谷大学教授
佐賀枝 夏文

大谷大学正門にある「知進守退」の石碑に寄り添うように、学園に集うわたしたちを、いつも菩提樹が見守っています。

「春」、桜の花のあと多くの樹木が新緑に輝くころ、やおら菩提樹の新芽がふくらみはじめます。冬の寒風に、烈風の中で貯えた、そのぎっしりつまったエネルギーを、よみがえって生きる姿として、見せていただきました。

「夏」、菩提樹のハートの形をした葉っぱ、そして、ヘリコプターの羽根のような双葉の緑陰の心地よい風がおもいだされます……。

「秋」、菩提樹は、低気圧の前線が大暴れした翌朝、微動だにしないですくくと立つ姿を見せていただきました。そして、菩提樹の立つ大地は、石やがれきだらけでした。根がしっかりと、大地をつかむ生き方を教えていただきました。

「冬」、木枯らしが吹きはじめると、葉っぱ

に覆われていたときには、垣間見ることができませんでしたが、さまざまな困難に立ち向かって生きる勇姿を見せていただきました。樹皮は剥がれ、枝が折れ、切断され……。齢をかさねて生きることは、無傷ではいられないことを、そして力強く生きることを教えていただきました。

菩提樹の学園に集ったわたしたち同窓生を、自由に学び、のびやかに育てていただきました。同窓諸氏は、在学中に生涯の恩師、そして、生涯の学友と出会われたこととおもいます。また、恩師からいただいた学恩を大切に、学窓から巣立ちご活躍のこととおもいます。わたしは、学生時代に金子大榮先生の講義を受講させていただき、期末レポートに添えていただいた「人生に学ぶこと」を、いつも大切な原点として歩んでまいりました。わたしたちの母校谷大は、同窓生の「こころのふるさと」であり、「ともしび」であります。そこに、集えたことの意義を大切におもいます。

人生のおりおりに、菩提樹におもいを馳せ、訪ねたいとおもいます。

表紙絵 「百年目の尋源館」

53×41cm 2013年作

尋源館（旧名・本館）が建てられて今年が百周年ということ、3月半ばに校庭の桜を写生している時に知りました。花木の写生は花が咲く前に枝ぶりを描き、花が咲くとその上から花を描いていきます。前から博綜館の5階から見る尋源館の姿に魅せられていたので、3月下旬に写生をしました。普段地上からしか見えていなかったので、写生をしていますと見えないところが見えてきます。銅板づくりの装飾屋根の先が腐蝕して傾いている箇所があったり、南北の突き出した屋根の高さの違いなどいろいろな発見があります。写生をすることはそのものと対話することです。また凝視することから相手のものから教えられます。このごろは画学生でも写生をしていません。頭だけの思いつきや、流行の真似ではなく、五感を用い相手から学ぶことが必要だと思います。このことは全ての学問に通じます。

屋根の上のシンボリックな高塔は本来鐘を設置するはずではなかったのかと思ってしまう。でも実際は最初から鐘はなかったこと。鐘のない鐘楼はそれぞれの心の中でいつも打ち鳴らす発奮と警鐘の鐘のようです。

大学は時代と共に建物や人々も変化して来ました。新しい建物

が建てられましても、やはり尋源館は大谷大学の象徴なのです。新しい建築も百年後には大学の顔になるものでなければなりません。ただ古いだけではなく、世に問う人物を輩出した重みのある歴史があるのです。「古いものにとらわれない、新しいものに惑わされない」という仏陀の言葉が大切です。建物も人も新しいものが国宝とならねばなりません。「花伝書」のように人はその年齢、年齢によって学ばなければならないことがあります。当然学生でなければ学べないこともあります。大谷大学は世界に誇れる仏教（生き方を学ぶ）の大学であって欲しいのです。有能な学生が仏教を基本として学び、その学生を啓蒙し、サポートする。そのような場であって欲しいと願うのです。尋源館で卒業までに一度は授業を受けることも、大谷大学の重みを知る上で必要だと思えます。また卒業生が帰宅出来る場所があって欲しいと思うのは私だけでしょうか。

画面の右（北側）にはいつも変わらない常緑のヒマラヤ杉、左側には春の新芽の伸びゆく樹木を若人の思いで描きました。

畠中光亨（1970年文学部卒業）

日本画家 大谷大学非常勤講師

2013年9月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにもずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。